

2024年度第1四半期決算の概要

(2024年4月1日～2024年6月30日)

2024年7月30日

山陽特殊製鋼株式会社
<https://www.sanyo-steel.co.jp/>



目次

1. 2024FY1Q決算の概況

2024FY1Q損益の概要

事業環境

業績推移(四半期)、セグメント別損益、貸借対照表(連結)

経常利益の変化要因(2023FY1Q→2024FY1Q、2023FY4Q→2024FY1Q)

2. 業績予想等

2024FY業績予想

経常利益の変化要因(2024FY前回予想→2024FY今回予想、2023FY→2024FY今回予想、
2024FY上期予想→2024FY下期予想、2024FY1Q→2024FY2Q予想)

OVAKOの状況、SSMIの状況

2024FY配当予想

3. トピックス

4. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

5. 参考資料

主要市場動向

業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

損益の詳細等

1. 2024FY1Q決算の概況

2024FY1Q損益の概要 (対2023FY1Q)

連結経常利益28億円(前年同期比-33億円)

売上数量の減少、OVAKOの一過性影響の縮小により、減収減益

外注・物流面を含む労務費の上昇も踏まえた販売価格の改定によるマージン改善があったものの、売上数量の減少やOVAKOの一過性増益影響の縮小などにより、前年同期比減収減益。

(単位：億円、%)

	2024FY1Q (A)		2023FY1Q (B)		増減 (A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	885	100.0	999	100.0	-113	-11.4
営業利益	25	2.8	55	5.5	-30	-55.3
経常利益	28	ROS 3.2	61	ROS 6.1	-33	-53.5
内、当社単独	14	3.6	20	4.2	-6	-30.7
内、OVAKO	28	6.8	52	11.8	-24	-45.6
内、SSMI	2	3.2	2	2.9	+0	+13.4
内、のれん償却費	▲9	-	▲8	-	-1	-
税後利益 (注1)	20	2.3	43	4.3	-23	-52.9
のれん償却費を除く税後利益	29	3.3	51	5.1	-22	-42.9
売上数量 (千t)	352	117.4 /月	392	130.6 /月	-40	-13.2 /月
内、当社単独	175	58.2 /月	213	71.0 /月	-38	-12.7 /月
内、OVAKO	150	50.1 /月	152	50.7 /月	-2	-0.6 /月
内、SSMI	27	9.0 /月	27	8.9 /月	+0	+0.1 /月

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～3月の数値

事業環境

需要動向

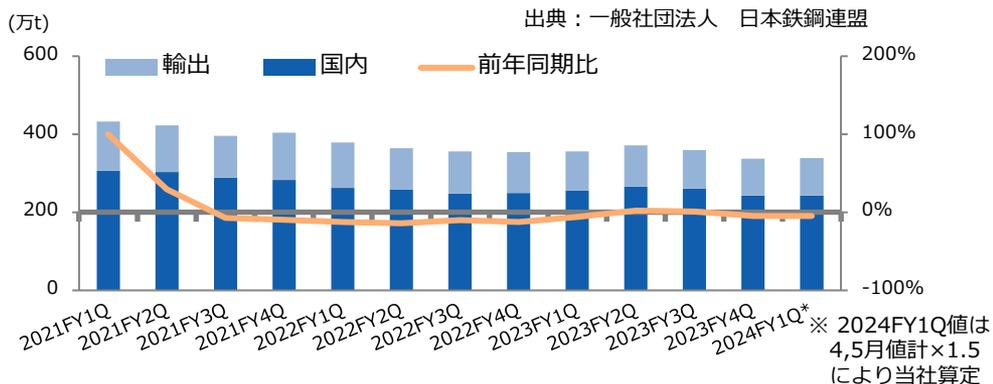
日本：建設・産業機械向けを中心に在庫調整局面からの緩やかな回復が続いているが、2024FY1Qにおいて新たに発生した自動車の生産・出荷停止の影響等による関連分野の活動水準の停滞影響が残る。ただし、在庫調整は縮小方向にあり、2024FY2Q以降、段階的に解消していくと想定。

欧州：金利の高止まりや中国経済の回復の遅れなどにより、需要が停滞。利下げによる2024FY下期からの需要回復を期待。

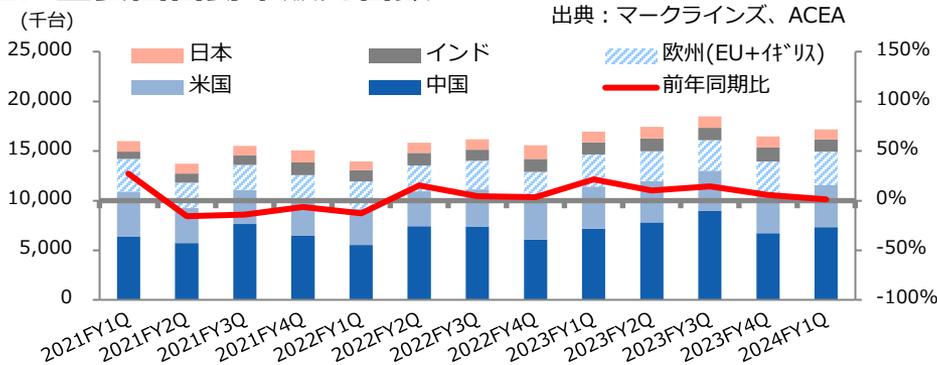
原燃料価格

概ね低下傾向。2024FYは前期比低下も、依然として高位で推移。物流費等のインフレも継続。

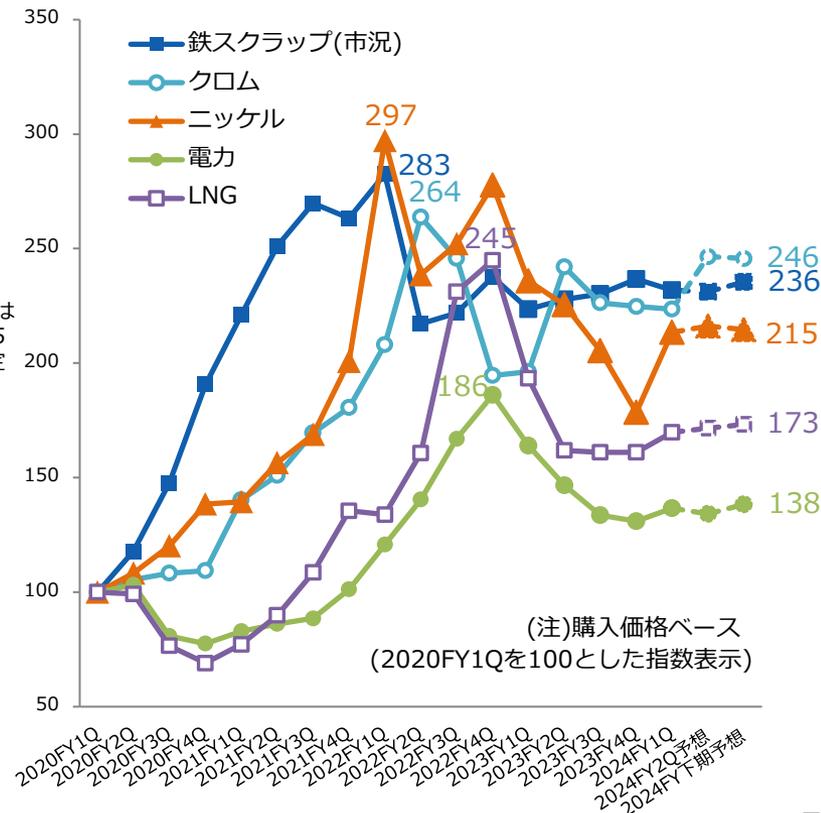
1. 特殊鋼受注数量



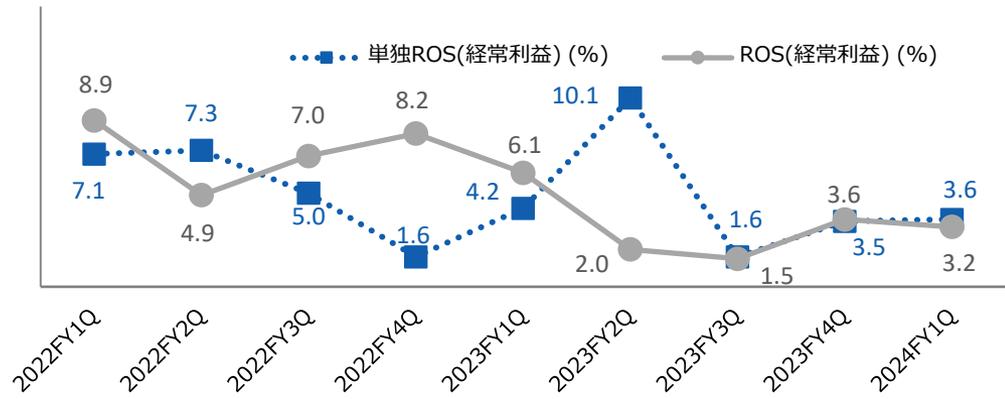
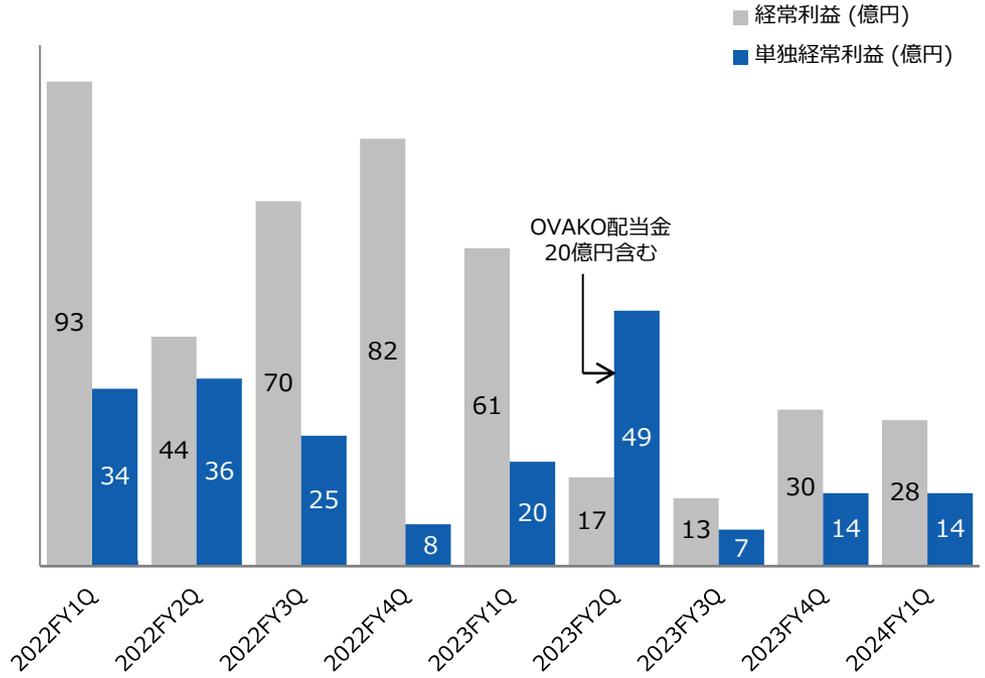
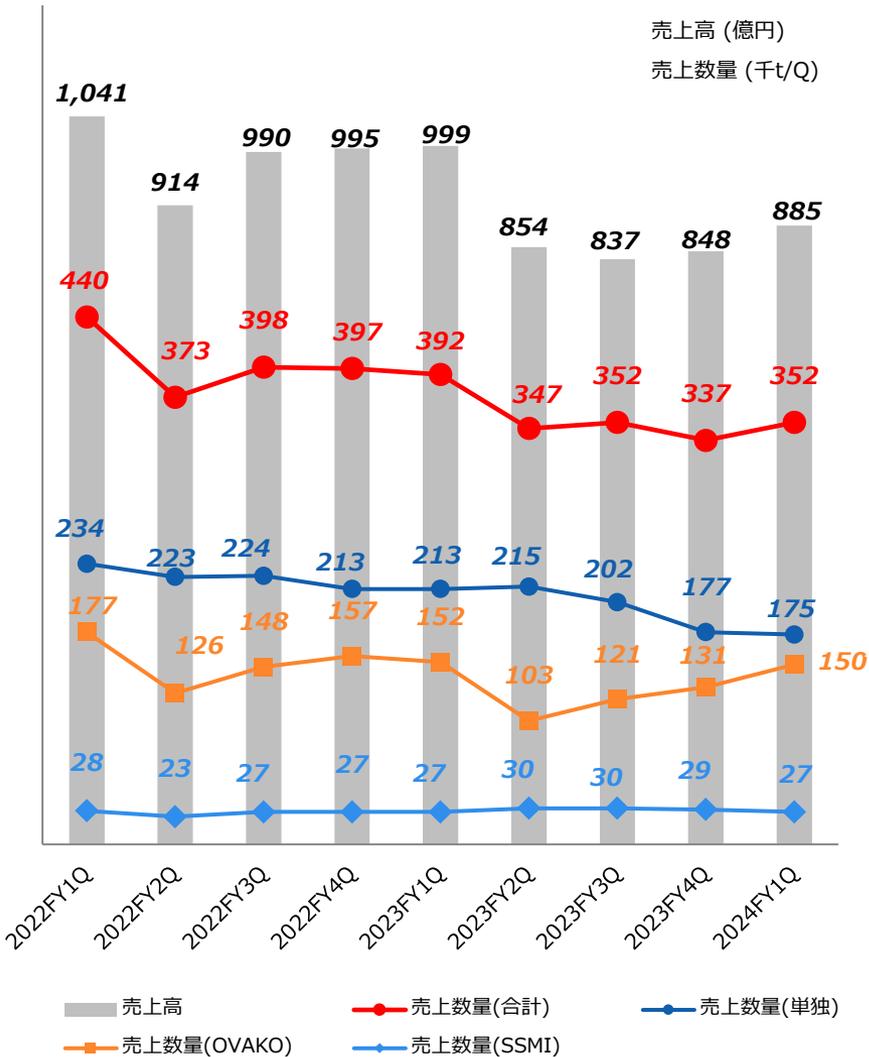
2. 主要国自動車販売台数



3. 原燃料価格推移



業績推移(四半期)



セグメント別損益

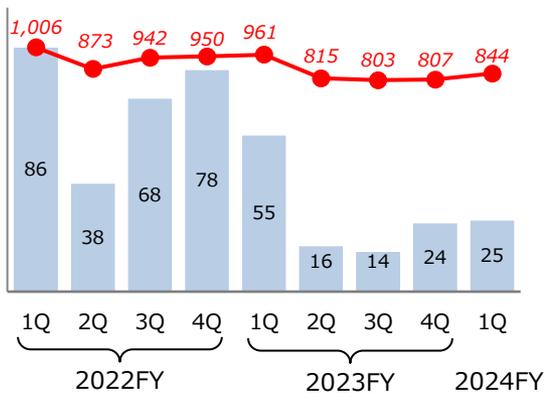
(単位：億円、%)

	2024FY1Q (A)			2023FY1Q (B)			対前年同期 (A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	844	25	3.0	961	55	5.7	-117	-29	-2.7
粉末	14	3	18.9	14	3	18.1	-0	+0	+0.8
素形材	44	▲4	-8.3	45	▲3	-5.8	-1	-1	-2.5
小計	901	24	2.7	1,020	55	5.4	-118	-30	-2.7
その他	3	0	0.5	3	▲0	-1.7	+1	+0	+2.2
調整額	▲19	0	-	▲23	0	-	+4	-0	-
連結計	885	25	2.8	999	55	5.5	-113	-30	-2.7

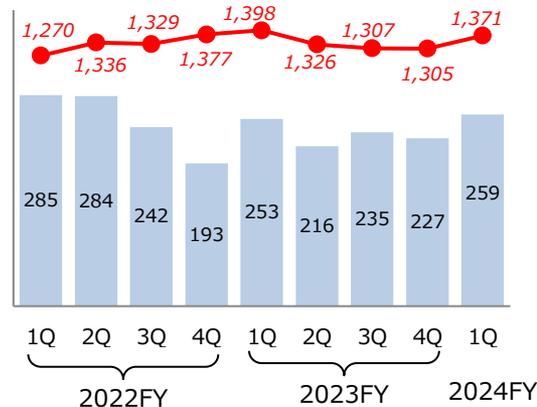
事業別損益推移

■ 営業利益 ● 売上高

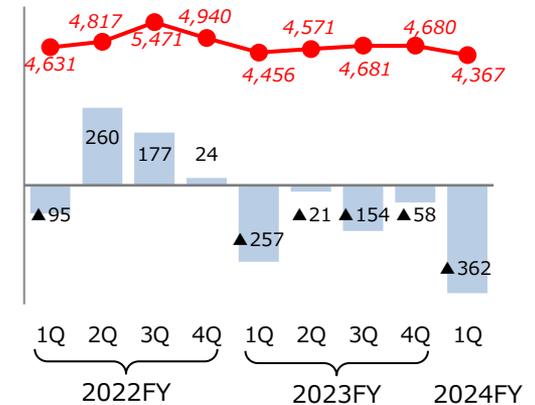
鋼材セグメント (単位：億円)



粉末セグメント (単位：百万円)



素形材セグメント (単位：百万円)



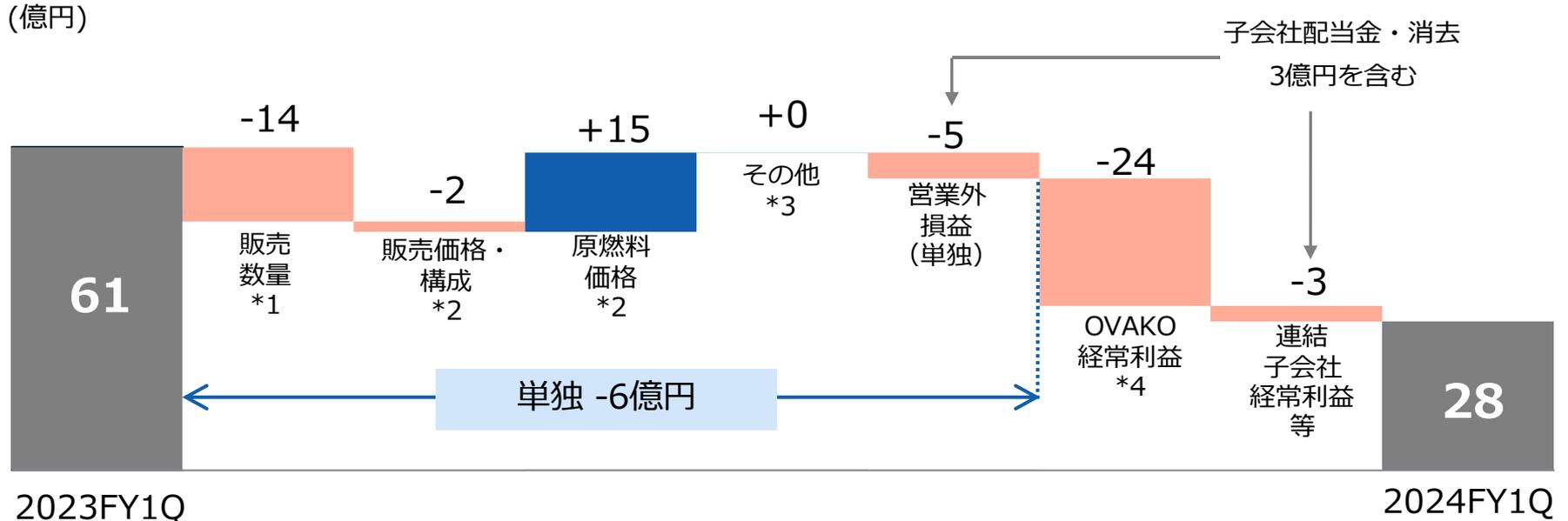
貸借対照表 (連結)

(単位：億円、円/株)

	2024/6 (A)	2024/3 (B)	増減 (A)-(B)	主な増減理由
流動資産	2,339	2,284	+55	資産
現預金	248	266	-18	[内、為替影響+116億円]
関係会社預け金	46	48	-2	1. 売上債権 : 為替影響による増
売上債権	759	729	+30	2. 棚卸資産 : 為替影響による増
棚卸資産	1,228	1,192	+36	3. のれん : 償却-9億円、為替影響+18億円
固定資産	1,749	1,703	+47	
有形固定資産	1,274	1,235	+39	
のれん	339	330	+9	
投資その他	96	98	-2	
資産合計	4,089	3,987	+102	
負債	1,749	1,701	+48	負債・純資産
仕入債務	387	394	-6	[内、為替影響+116億円]
有利子負債	934	829	+105	1. 有利子負債 : 運転資金調達に伴う増加
純資産	2,340	2,286	+54	2. 純資産 : 為替調整勘定+72億円 利益剰余金+4億円 (税後利益+20億円、配当-16億円)
自己資本	2,325	2,267	+59	
非支配株主持分	15	19	-4	
負債・純資産合計	4,089	3,987	+102	
自己資本比率 (%)	56.9	56.9	+0.0	【為替レート】
1株当たり純資産	4,267.81	4,160.27	+107.54	2024/6末 : 172.3円/€
D/Eレシオ(ネット) (倍)	0.27	0.23	+0.04	2024/3末 : 163.2円/€

(参考)主要各社の総資産額(2024/6末：連結消去前) 当社 2,706億円 OVAKO 1,447億円 SSMI 154億円

経常利益の変化要因 (2023FY1Q→2024FY1Q)



山陽	20
OVAKO	52
その他	-12

連結 -33億円

山陽	14
OVAKO	28
その他	-14

*1 販売数量

- ・ 18%減 (-38千t : 213千t→175千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+3 (×3→○0)
- ・ エネルギー-4 (○3→×1)

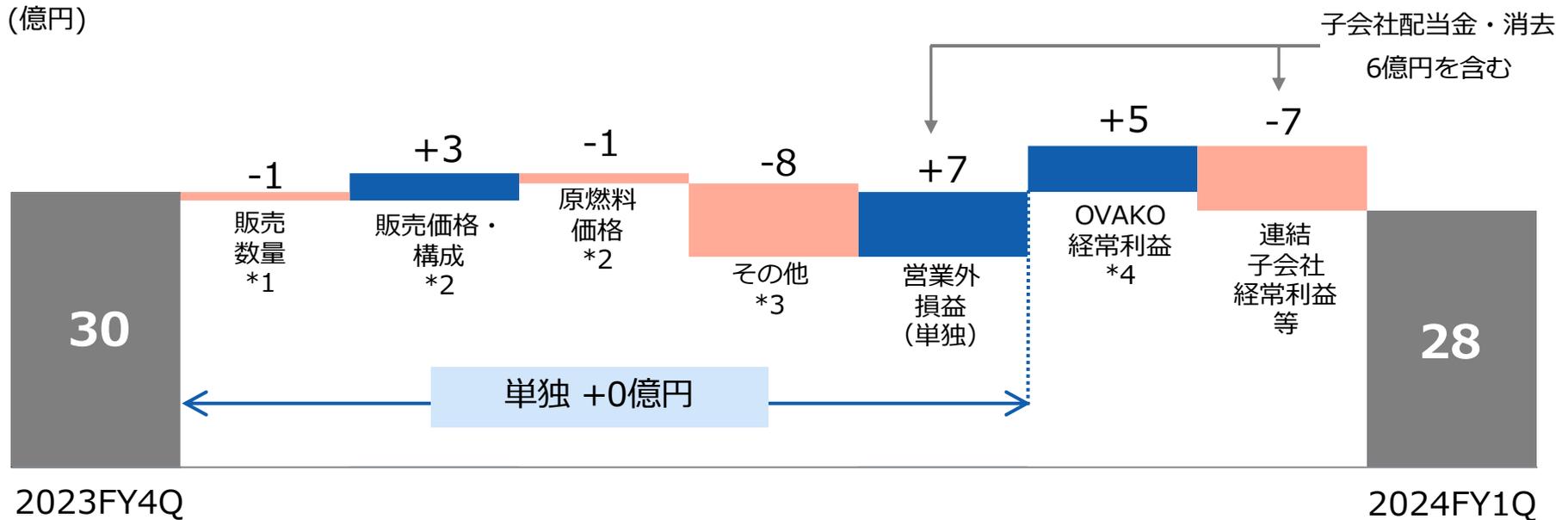
*3 その他内訳

- ・ 固定費+2、
諸資材・外注・物流費等-2

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量 -2
1%減 (-2千t : 152千t→150千t)
- ・ 一過性要因 -10 (+8→-2)
うち、為替影響 -7 (+5→-2)
エネルギー補助金 -3 (+3→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -19
- ・ その他(為替(円換算)影響、固定費等) +7

経常利益の変化要因 (2023FY4Q→2024FY1Q)



山陽	14
OVAKO	23
その他	-6

連結 -2億円

山陽	14
OVAKO	28
その他	-14

*1 販売数量

- ・ 1%減 (-2千t : 177千t→175千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+0 (×0→○0)
- ・ エネルギー-3 (○2→×1)

*3 その他内訳

- ・ 諸資材・外注・物流費等-6、修繕費-1、固定費-1

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量 +22
14%増 (+19千t : 131千t→150千t)
- ・ 一過性要因 -9 (+7→-2)
うち、為替影響 -6 (+4→ -2)
その他 -3 (+3→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -4
- ・ その他(固定費等) -4

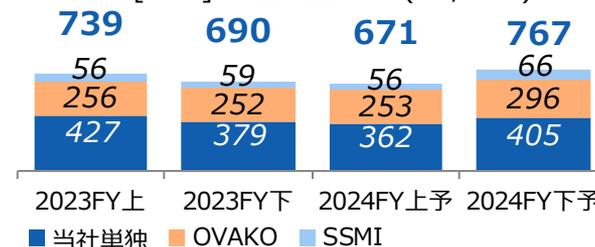
2. 業績予想等

2024FY業績予想 (2024/7/30公表)

連結経常利益130億円(前期比+9億円)

緩やかな需要回復が期待されるものの、自動車の生産・出荷停止に伴う影響が不透明であるほか、中国・欧州経済の先行きやインフレによる世界経済への影響が懸念される。また為替レートは、前回予想よりも円安水準で推移。引き続き販売価格改定を進めるとともにコストダウンにも取り組むことによりマージンを維持・拡大していく。

[参考] 売上数量推移 (千t/半期)



(単位：億円、%)

	24FY		2024FY予想		2023FY		増減	
	上期予想	下期予想	(C)=(A)+(B)		(D)		(C)-(D)	
	(A)	(B)	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,650	1,800	3,450	100.0	3,538	100.0	-88	-2.5
営業利益	26	97	123	3.6	114	3.2	+9	+8.2
経常利益	25	105	130	3.8	121	3.4	+9	+7.3
内、当社単独	47	58	105	6.4	90	5.0	+15	+17.1
内、OVAKO	23	42	65	4.4	84	5.9	-19	-22.9
内、SSMI	4	6	10	3.8	7	2.9	+3	+49.4
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	-	▲32	-	-2	-
税後利益 (注1)	12	83	95	2.8	91	2.6	+4	+4.9
ROE (%)			4.1		4.1		-	
のれん償却費を除く税後利益	29	100	129	3.7	123	3.5	+6	+4.9
ROE (%)			5.6		5.6		-	
売上数量 (千t)	671	767	1,438		1,429		+10	+0.7

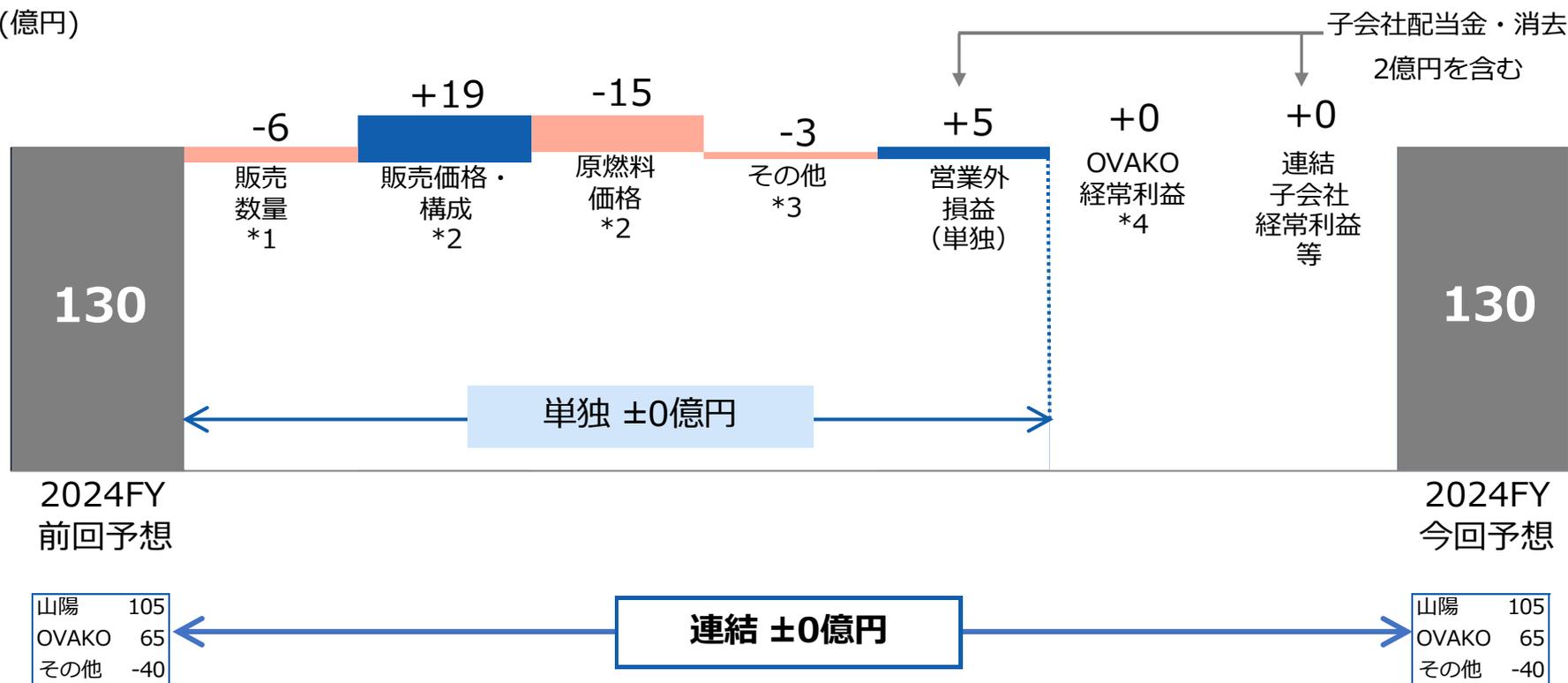
(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益 (注2) SSMI：1月～12月の数値

【予想の主要前提(2024年7月以降)】

- ・鉄スクラップ(購入) 52.0千円/t(姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 90\$/BL ・為替 151.5円/\$、163.0円/€

経常利益の変化要因 (2024FY前回予想→2024FY今回予想)

(億円)



*1 販売数量

- ・ 2%減 (-13千t : 780千t→767千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+0 (×0→×0)
- ・ エネルギー-2 (〇0→×2)

*3 その他内訳

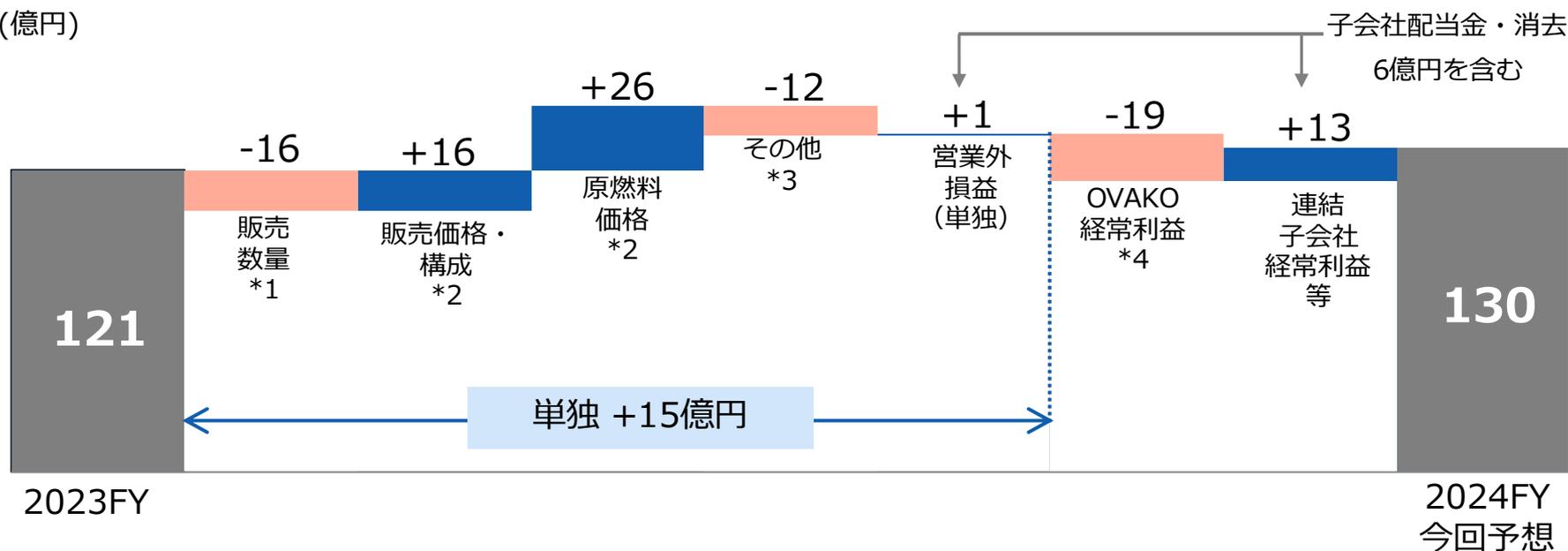
- ・ 固定費+1、
諸資材・外注・物流費等-4

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量 +4
1%増 (+4千t : 545千t→549千t)
- ・ 一過性要因 -2 (0→-2)
うち、為替影響 -2 (0→-2)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -16
- ・ その他(為替(円換算)影響、固定費等) +14

経常利益の変化要因 (2023FY→2024FY今回予想)

(億円)



山陽	90
OVAKO	84
その他	-53

連結 +9億円

山陽	105
OVAKO	65
その他	-40

*1 販売数量

- 5%減 (-39千t : 806千t→767千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- 鉄スクラップ+3 (×3→×0)
- エネルギー-19 (○17→×2)

*3 その他内訳

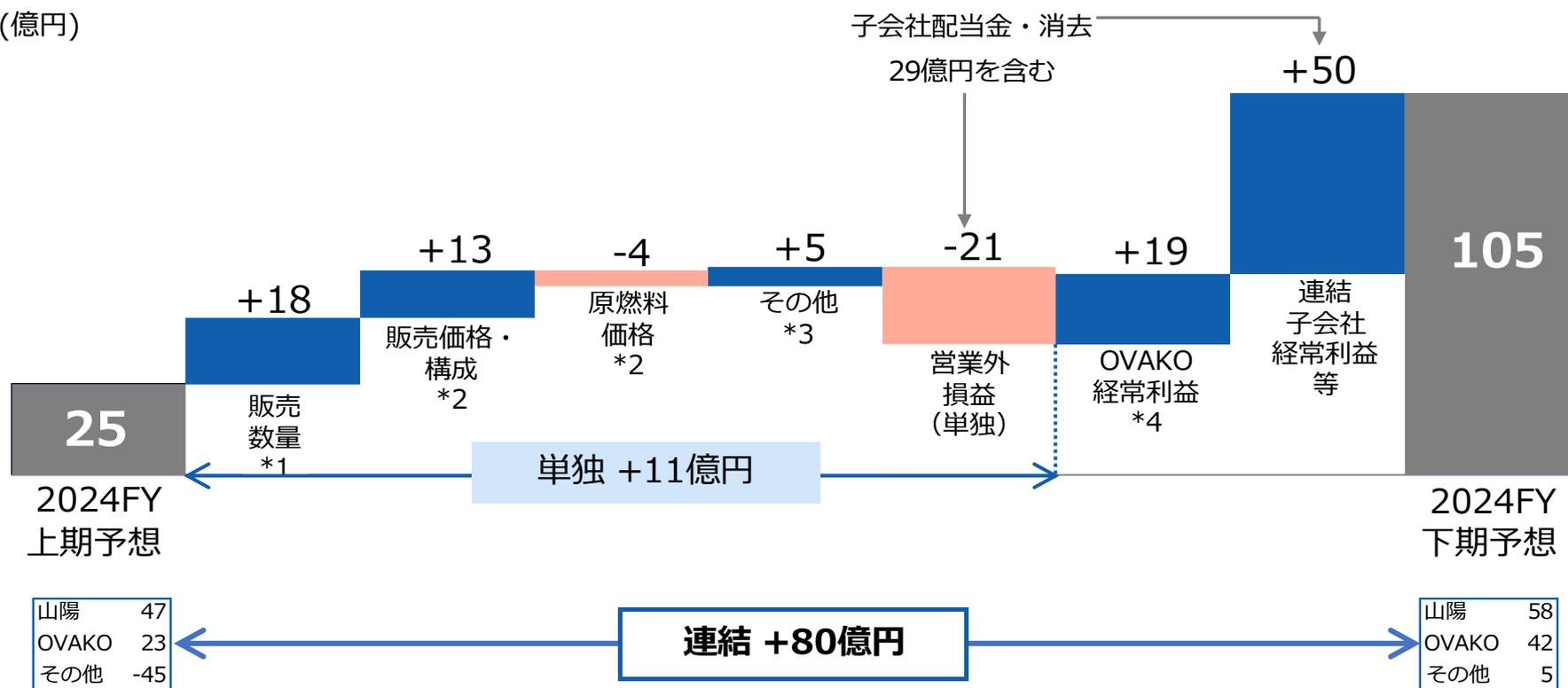
- 変動費コストダウン+10、修繕費+1、諸資材・外注・物流費等-13、固定費-10

*4 OVAKO経常利益

- 販売数量 +42
8%増 (+41千t : 508千t→549千t)
- 一過性要因 -15 (+13→-2)
うち、為替影響 -6 (+4→ -2)
エネルギー補助金 -6 (+6→ 0)
その他 -3 (+3→ 0)
- 販売・原燃料価格、構成 -42
- その他(固定費等) -4

経常利益の変化要因 (2024FY上期予想→2024FY下期予想)

(億円)



*1 販売数量

- ・ 12%増 (+43kt : 362kt→405kt)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ-1 (〇〇→×0)
- ・ エネルギー-0 (×1→×1)

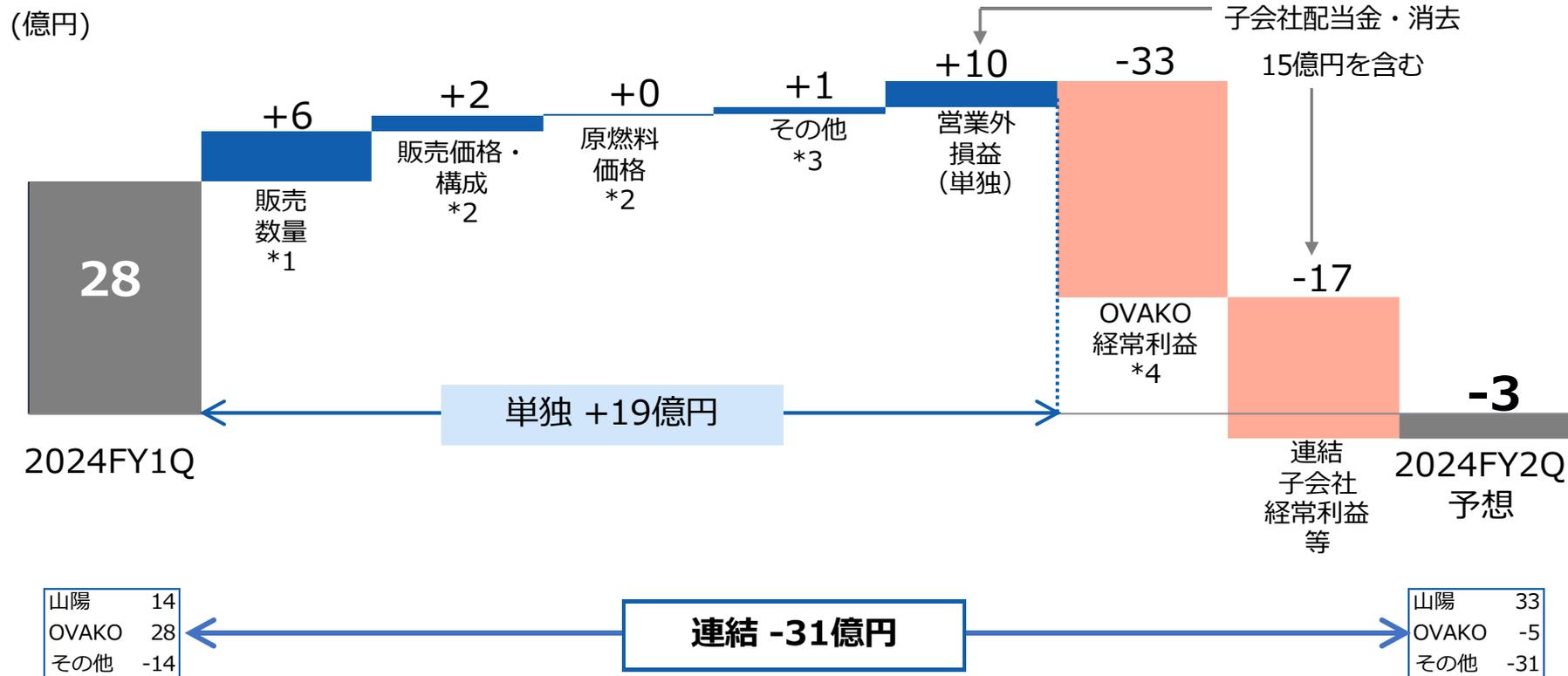
*3 その他内訳

- ・ 変動費コストダウン+7、諸資材・外注・物流費等+3、修繕費+2、固定費-7

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量(季節差等) +48
17%増 (+43kt : 253kt→296kt)
- ・ 一過性要因 +2 (-2→0)
うち、為替影響 +2 (-2→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -8
- ・ その他(固定費等) -23

経常利益の変化要因 (2024FY1Q→2024FY2Q予想)



*1 販売数量

- 7%増 (+13千t : 175千t→188千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- 鉄スクラップ+0 (〇〇→〇〇)
- エネルギー+0 (×1→×0)

*3 その他内訳

- 変動費コストダウン+2、修繕費+1、諸資材・外注・物流費等-2

*4 OVAKO経常利益

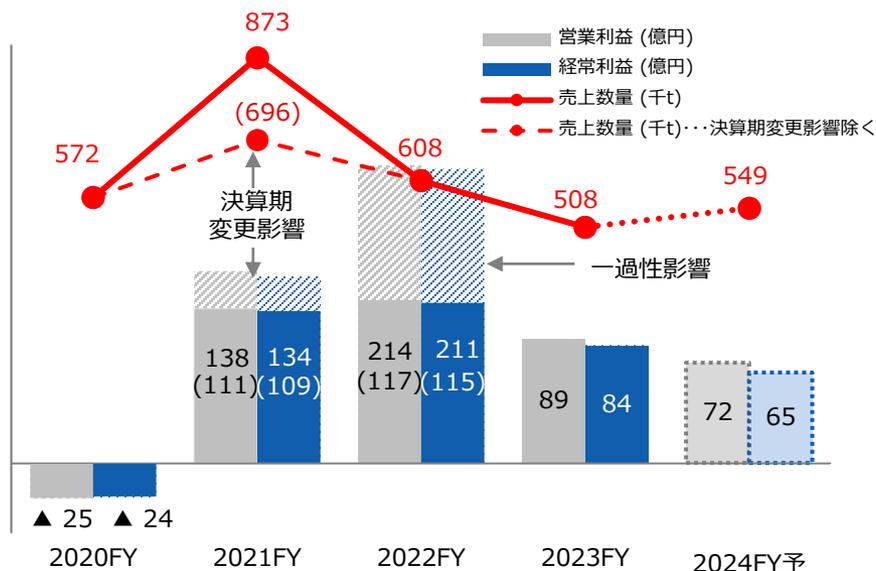
- 販売数量(季節差等) -54
32%減 (-48千t : 150千t→103千t)
- 一過性要因 +2 (-2→0)
うち、為替影響 +2 (-2→0)
- 販売・原燃料価格、構成 +3
- その他(固定費等) +16

OVAKOの状況

2024FY見通し

- ・ **2024FY1Q**は、欧州の景気回復遅れを背景に需要停滞が継続。前年同期比では一過性影響縮小や構成悪化があったものの、拡販による数量確保やコスト抑制等により、**経常利益28億円**(前年同期比-24億円)。
- ・ **2024FY**は、市場環境の大幅改善は見込めない中、拡販を含む数量確保に引き続き取り組み、**経常利益65億円**(2023FY比-19億円)を計画。固定費コントロールの徹底、生産構造最適化の着実な実行、カーボンニュートラルの強みを活かした販売等に引き続き取り組む。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化の取り組みと4社連携

1. 収益力の強化

- ① 適正な価格政策、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
- ② ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
- ③ 固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る

2. 4社連携によるシナジー効果の発揮

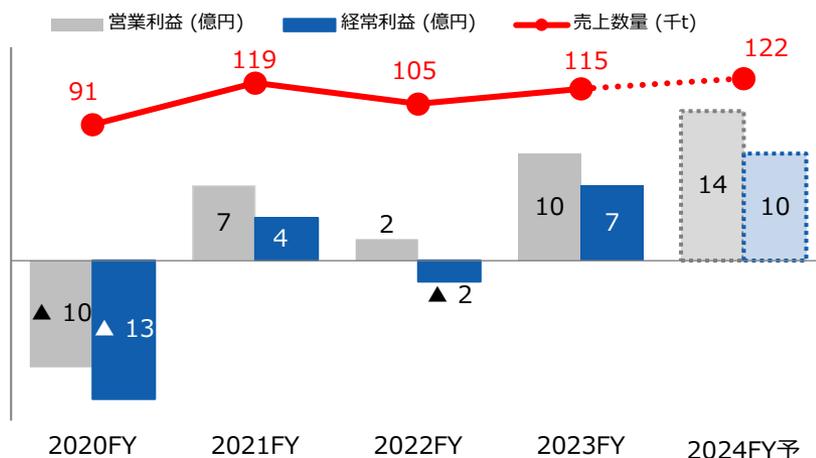
- ① 拡販活動の推進
- ② 操業支援によるコスト削減
- ③ 調達コストの削減

SSMIの状況

2024FY見通し

- ・2024FY1Q(1-3月期)は、安価鉄源の活用や生産計画の最適化などによるコスト改善施策を実行し、**経常利益2億円**(前年同期比+0億円)となった。
- ・2024FYは、拡販やコスト改善施策を確実に実行しつつ、販売価格や販売構成の改善を通じてマージンを拡大し、**経常利益10億円(2023FY比+3億円)**を計画。

売上数量、営業利益、経常利益推移



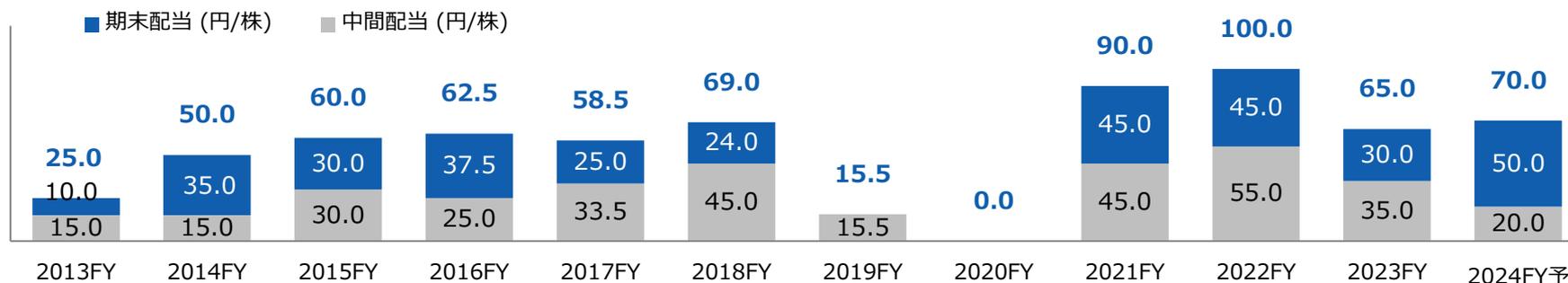
収益力強化に向けた取り組み

1. 営業基盤・営業体制の強化
高純度技術を活かした営業戦略の策定
拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
2. 変動費の削減
エネルギー原単位改善や安価な鉄源や電力の活用による操業コスト・調達コストの削減
3. 固定費の抑制
増資に伴う借入金の返済等による、金利コストの削減

- ・株主間協定に基づく三井物産(株)のプットオプション行使を受け、2024年5月24日に同社が保有するSSMIの全株式を追加取得、**完全子会社化**した。
- ・生産、販売、技術、人材、財務面等を一層強化することにより、**中長期的な経済成長が見込まれるインドにおけるプレゼンスをより確固たるものとし、当社グループのグローバル展開の強化と更なる成長**を図る。

2024FY配当予想

		2024FY 中間予想	2024FY 期末予想	2024FY 年間予想
1株当たり純利益	A	22.0円		174.4円
のれん償却費を除く1株当たり純利益	B	53.2円		236.8円
1株当たり配当金	C	20.0円	50.0円	70.0円
配当性向	C/A	90.8%		40.1%
	C/B	37.6%		29.6%



＜配当方針＞

配当性向、1株当たり配当額水準および成長投資等の所要資金などを総合的に勘案
通常の連結配当性向**35%**程度、のれん償却除き**30%**程度を目安とする

3. トピックス

トピックス

1. H3ロケット打ち上げ成功を受け JAXAより感謝状が贈呈 (2024年5月8日)

- ・宇宙航空研究開発機構(JAXA)から、当社粉末事業部の貢献に対し、感謝状が贈呈。
- ・JAXAは、2024年2月の種子島宇宙センターにおけるH3ロケットの試験機2号機打ち上げ成功に対して多大な貢献のあったサプライヤーへ感謝状を贈呈。
- ・当社は、AM(金属積層造形)粉末を提供。



JAXAから感謝状とH3ロケットの模型が贈呈

2. 高純度・球形状シリコン粉末の製造技術を開発 (2024年7月8日公表)

- ・半導体デバイスや太陽光発電機器等に幅広く使用されるシリコン(Si)の高純度かつ球形状な粉末の製造技術を開発。
- ・一般的に用いられる粉砕法に代わり、ガスアトマイズ法による製造技術を開発。
- ・溶射・肉盛用粉末、粉末成形品など、さらに幅広い用途・業界で活用可能。

シリコン粉末の外観写真	
粉砕法	ガスアトマイズ法

粉砕法(左)で製造した場合、粒子が不定形状となるため、粉末の流動性が低く、シリコンを溶射や肉盛用途で使用する際のノズル詰まりの原因となりやすい。一方、ガスアトマイズ法(右)で製造した粉末は球形状のため、高い流動性を実現。

トピックス

3. 「企業の森づくり活動」を実施 (2024年5月29日)

- ・企業や地域、地元自治体とが協同して森林の保全活動に取り組む「企業の森づくり活動」※を実施。
- ・2024年5月に実施した第1回目の活動には、当社従業員21名が参加。
- ・当社は森林や里山の保全活動を通じて、生物多様性の保全活動を推進していく。

※2024年5月に、兵庫県、姫路市ならびに公益社団法人兵庫県緑化推進協会と当社の4者間で2029年5月までの5年間を対象期間とした協定を締結。



姫路市立藤ノ木山自然公園の森林の一部(1.46ha)を「さんとくん 未来の森」と名づけ、本活動に取り組み中

4. インド子会社 SSMI が CDP から表彰 (2024年6月4日)

- ・SSMIの長年にわたる環境への取り組みが高く評価され、CDP※から表彰。
- ・SSMIは、2014年からCDPに参加。2023年はCDP気候変動スコアで「B」評価を取得したほか、サプライヤーと協働したCO₂排出量削減の取り組みを評価するサプライヤーエンゲージメント評価(SER)部門において、CDP最高評価の「A」を獲得。

※グローバルな環境情報開示システムを運営する英国の非営利団体(NGO)で、機関投資家と連携して企業に対し気候変動への取り組みや温室効果ガス排出量等に関する情報開示を求めている。

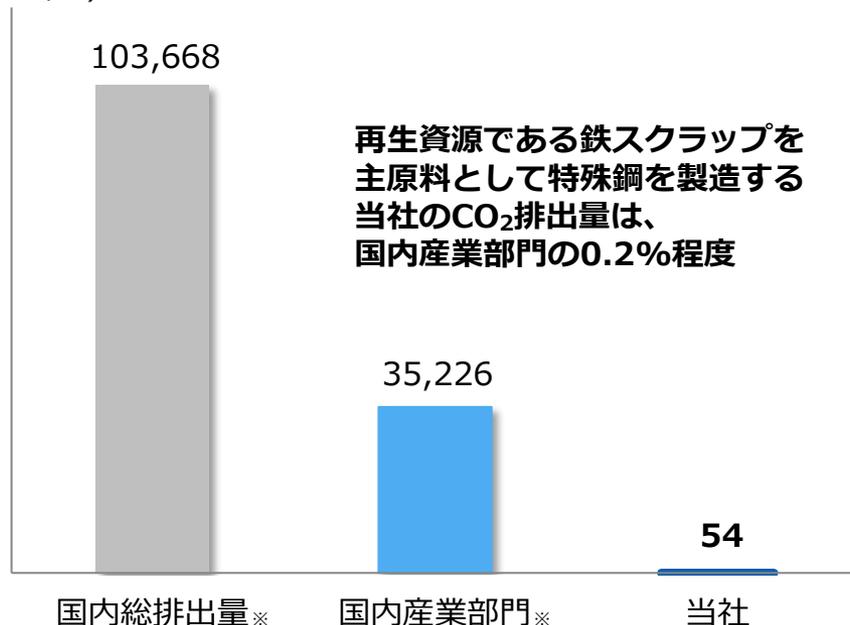


首都ニューデリーで開催されたCDPとインド商工会議所連盟(FICCI)の共催イベントにおいて表彰

4. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

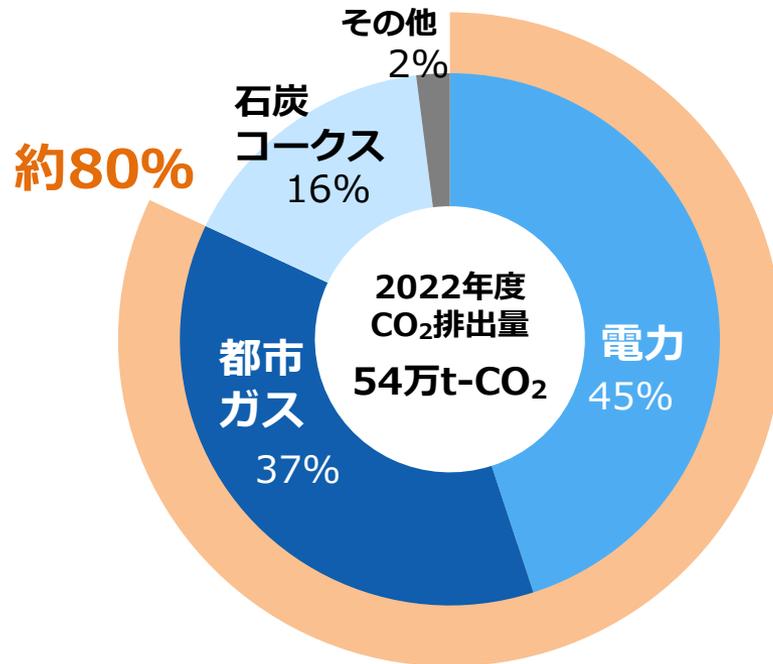
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

CO₂排出量における当社の位置づけ

(万t-CO₂/年)(2022年度CO₂排出量)

※国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス
日本の温室効果ガス排出量データ (2022年度実績確定値)

当社のCO₂排出量内訳 (当社単独Scope1+2)



当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

GXリーグへの参画

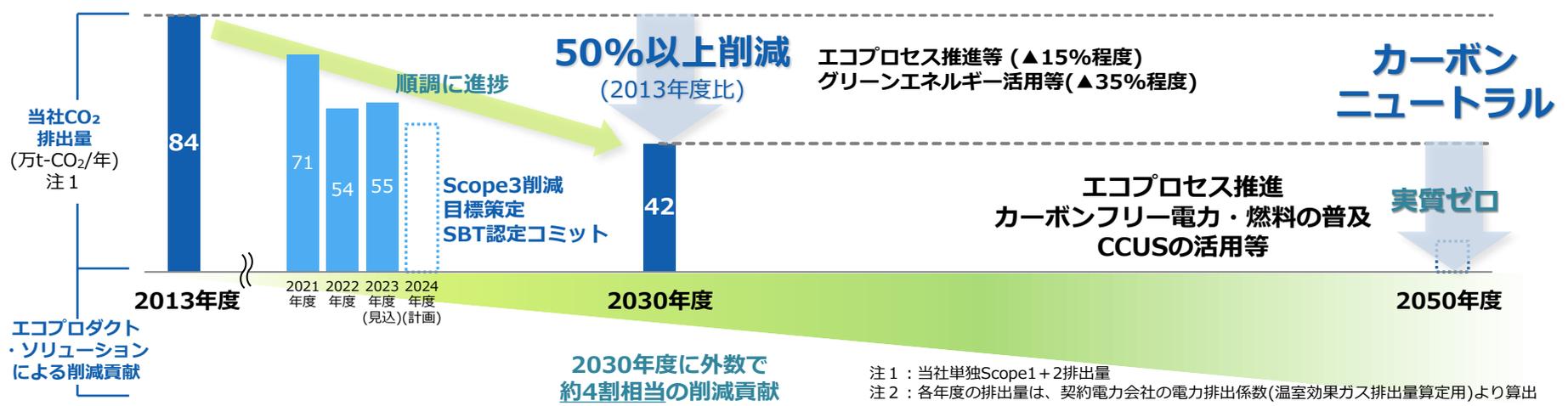
当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同、2023年5月にGXリーグに参画した。

自主的な排出量取引、市場創造のためのルール形成、ビジネス機会の創発、GXスタジオでの交流といったGXリーグにおける活動に積極的に参加していく。



2050年に向けた当社のロードマップ

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す



当社CO₂排出量削減



エコプロセス

製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進
※2023年度からインターナルカーボンプライシングを導入



グリーンエネルギー活用

カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用
※2022年度から再エネ由来電力の一部活用開始。
2024年度より水力・太陽光発電活用予定

エコプロダクト・エコソリューションによる削減貢献



エコプロダクト

製品を使用する段階でCO₂排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進



エコソリューション

エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOVAKO、SSMI等の海外グループ会社に展開

エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

- ・当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す。
- ・今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく。

長寿命軸受鋼



耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化

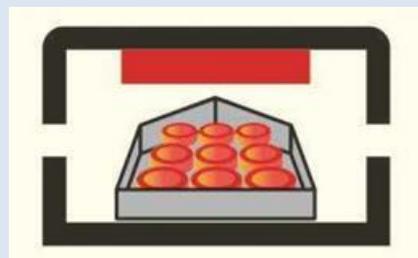


長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化
(CO₂削減効果は推計で1.3万トン/年※)

工程省略鋼



(高強度肌焼鋼：ECOMAX[®]シリーズ)
熱処理の省略・簡略化



(高硬度高靱性鋼：TOUGHFIT[®])
新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上



高耐食性化による
ごみ発電高効率化

※第18回 日本LCA学会 研究発表会(2023年3月10日)にて発表

欧州子会社OVAKOの取り組み

OVAKOロードマップ

2020年4月 ● **世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功**

2022年1月 ● **カーボンニュートラルに移行**

- 自社の製造プロセスにおけるCO₂排出を実質ゼロに
- ・カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量を相殺
 - ・気候サーチャージを適用

2023年9月 ● **カーボンフリー水素プラント稼働開始**

- 欧州最大級の設備
- Hofors工場加熱工程で排出するCO₂を約50%(約2万t/年)削減可能

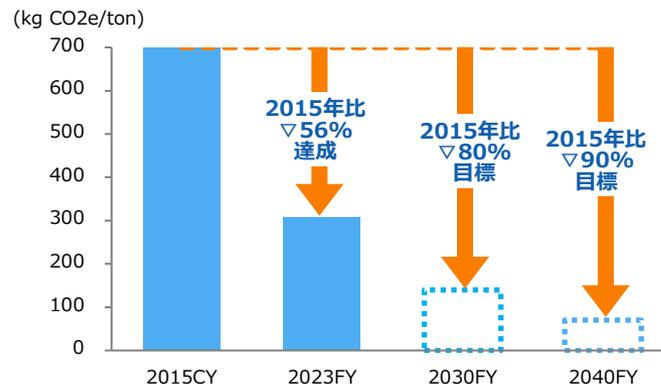
顧客との協同取り組み事例

- ・SKFと協同し、CO₂排出量90%減の軸受生産を達成
- ・Volvoの温室効果ガス ネットゼロ自動車製造プロジェクトへ参画
- ・FNsteelとパートナーシップ契約を締結



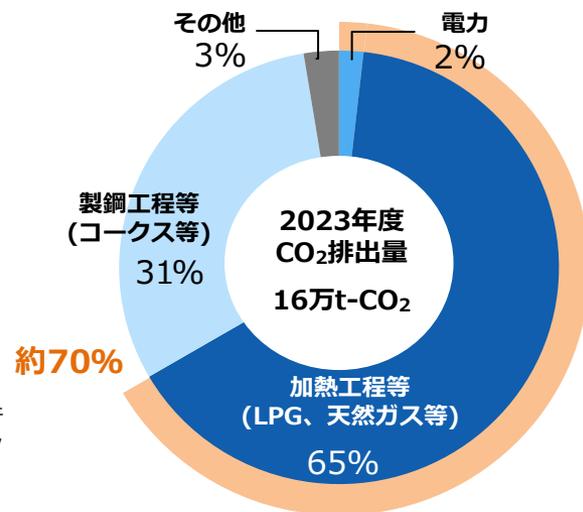
2023年度サステナビリティレポート発行
https://www.ovako.com/globalassets/downloads/sustainability/ovako-sustainability-report-fy2023_compressed.pdf

OVAKOのCO₂排出量(Scope1+2)



OVAKO SUSTAINABILITY REPORT 2023をもとに作成

OVAKOのCO₂排出量内訳



OVAKOのカーボンフリー水素プラントについて

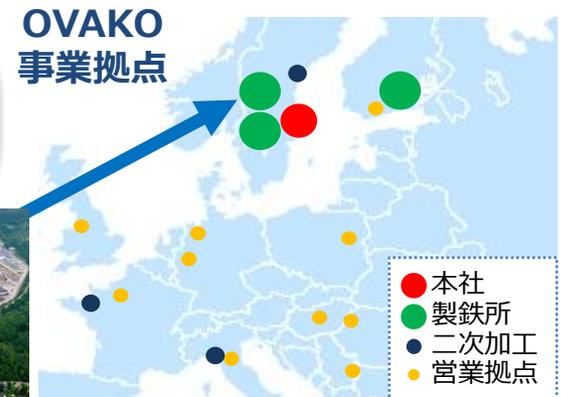
- ・スウェーデン政府の財政支援と現地有力企業(Volvo Group等)の参加を受けて、スウェーデンHofors工場内に建設。
- ・投資総額180百万SEK(スウェーデンクローネ) ※うち約4割をスウェーデン政府が財政支援
- ・脱化石電力を使用した水の電気分解により、毎時約4千 m^3 (約3千t/年)のカーボンフリー水素を生成可能。
- ・加熱炉等の燃料をカーボンフリー水素に転換することで、Hofors工場の加熱工程で発生する CO_2 の約50%(約2万t/年)を削減可能。
- ・このたび完成した水素プラントの稼働で得られる知見等を踏まえ、2030年をひとつの目途として各製鉄所での水素生成プラント導入を検討するなど、気候変動問題への更なる取り組みを推進していく。



OVAKO水素プラントの電解装置

豊かな自然に恵まれたスウェーデンは、脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高く、産業用電力料金は日本の1/2~1/3程度

OVAKO Hofors工場



カーボンフリー水素プラント開所式

2023年9月5日にスウェーデンのクリスターソン首相をはじめとする多数の来賓列席のもと、開所式を挙げる。

(中央)スウェーデン首相、
(左)当社代表取締役社長、
(右)OVAKO CEO

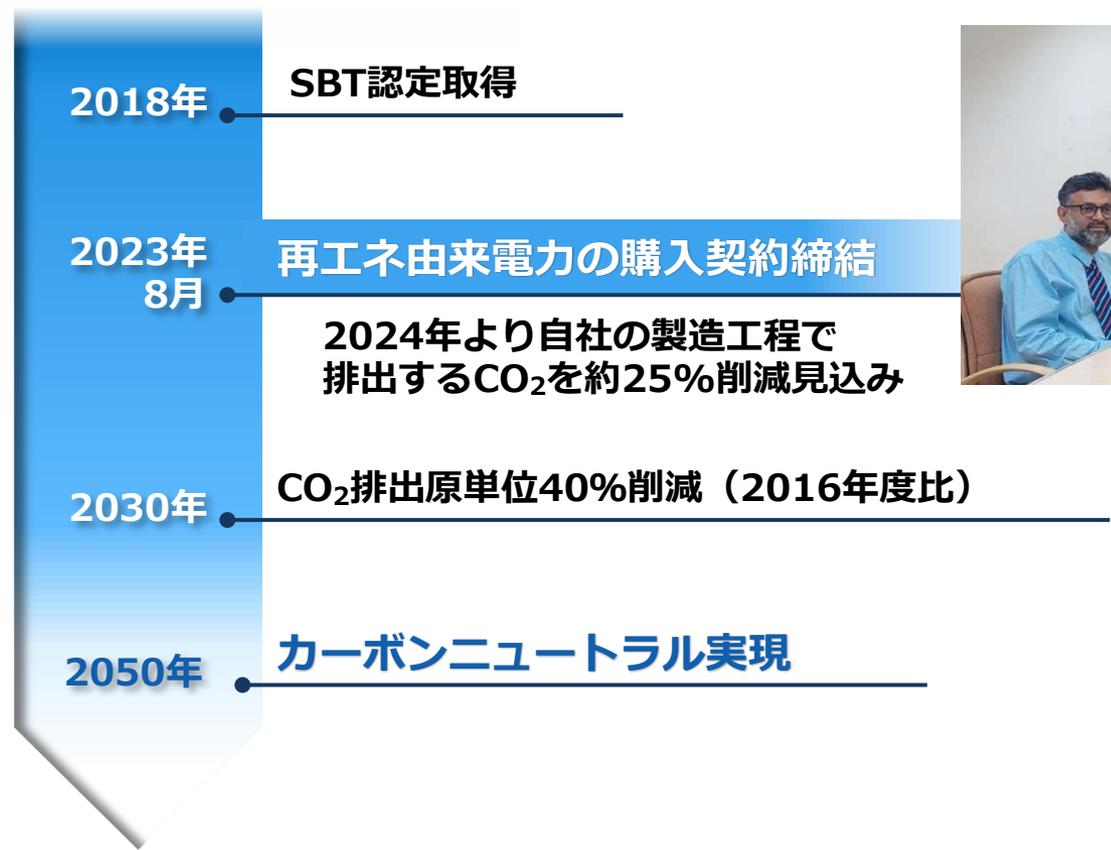


インド子会社SSMIの取り組み

再エネ由来電力の活用や燃料転換、省エネを推進

再エネ由来電力の活用や、従来の燃料油からクリーンで効率的な天然ガスへの燃料転換、エネルギー効率の高い生産プロセスや設備の導入等を推進。

SSMIロードマップ

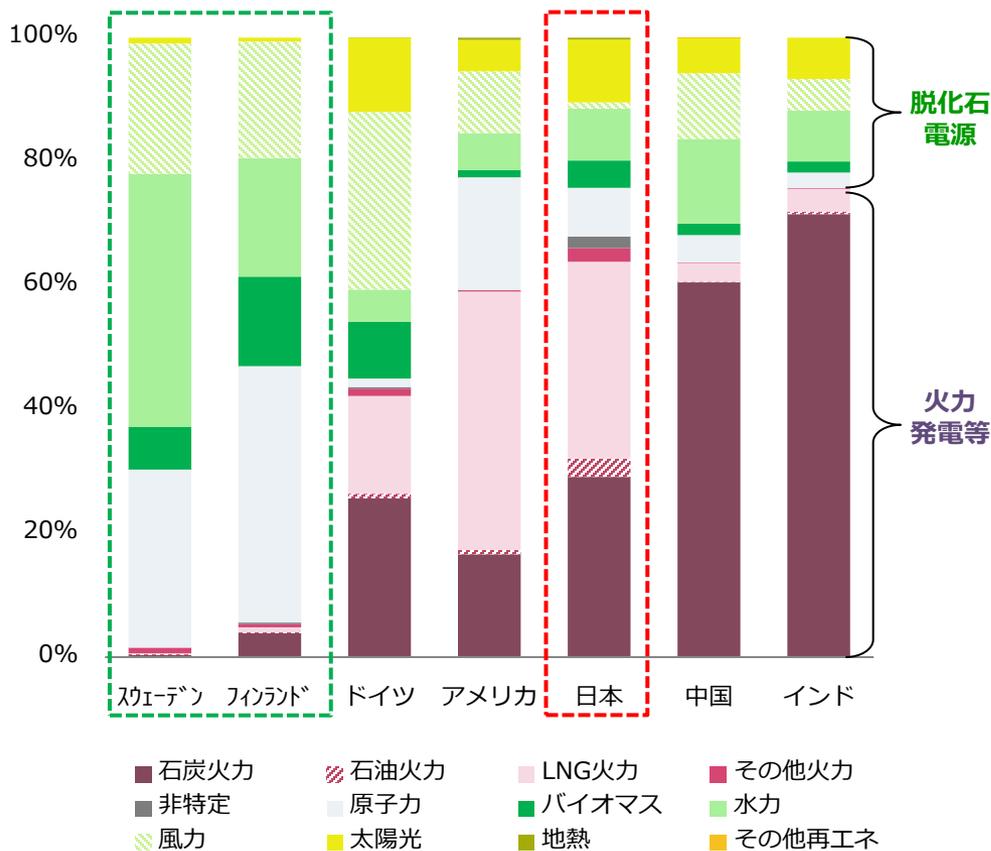


Tata Powerグループと太陽光発電による再エネ由来電力の購入契約を締結

各国の電源構成と産業用電力価格

電源構成(2023年)

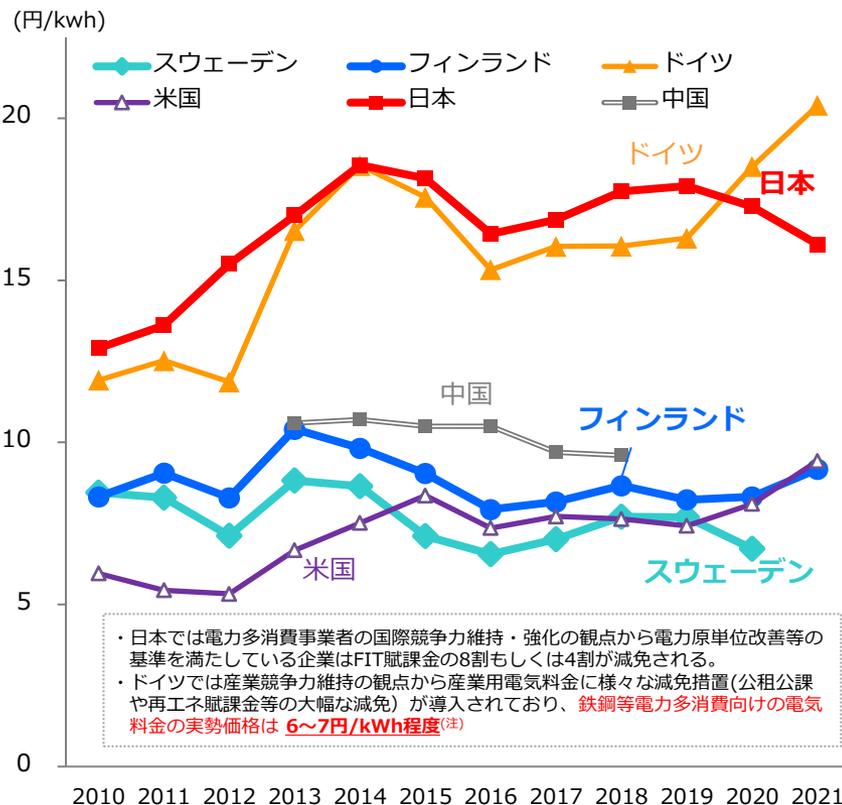
OVAKOの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い。



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

産業用電力価格の推移

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度。



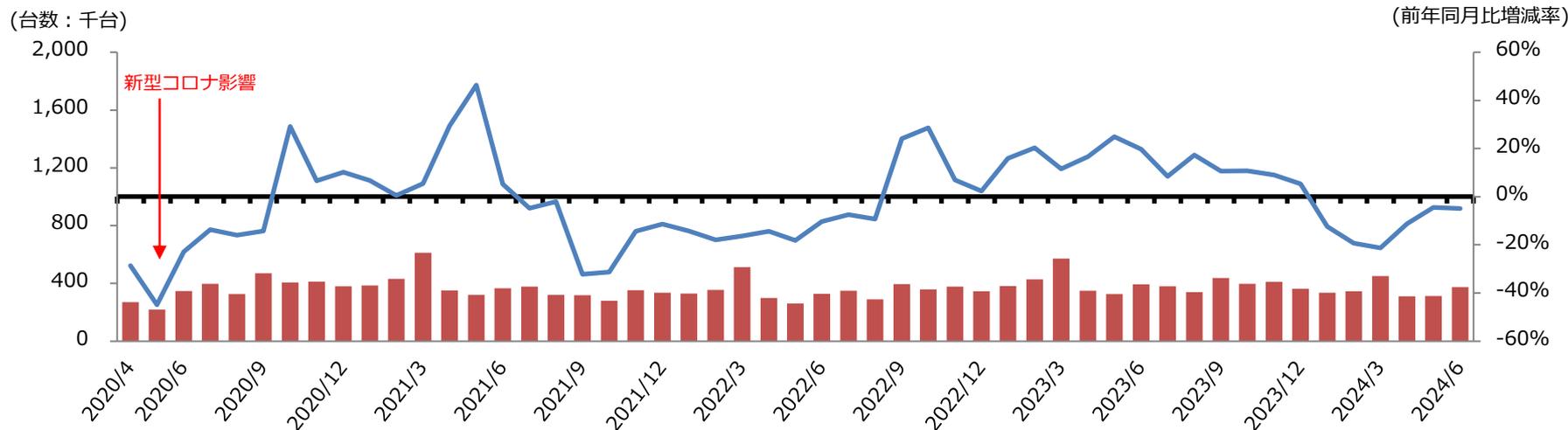
※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

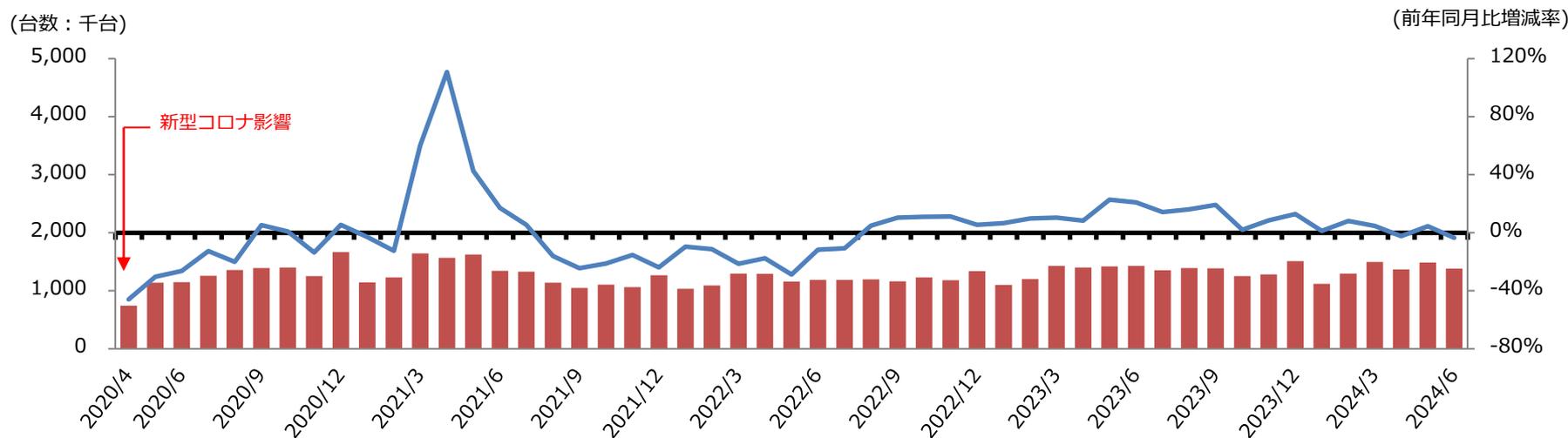
5. 參考資料

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 出典：マークラインズ



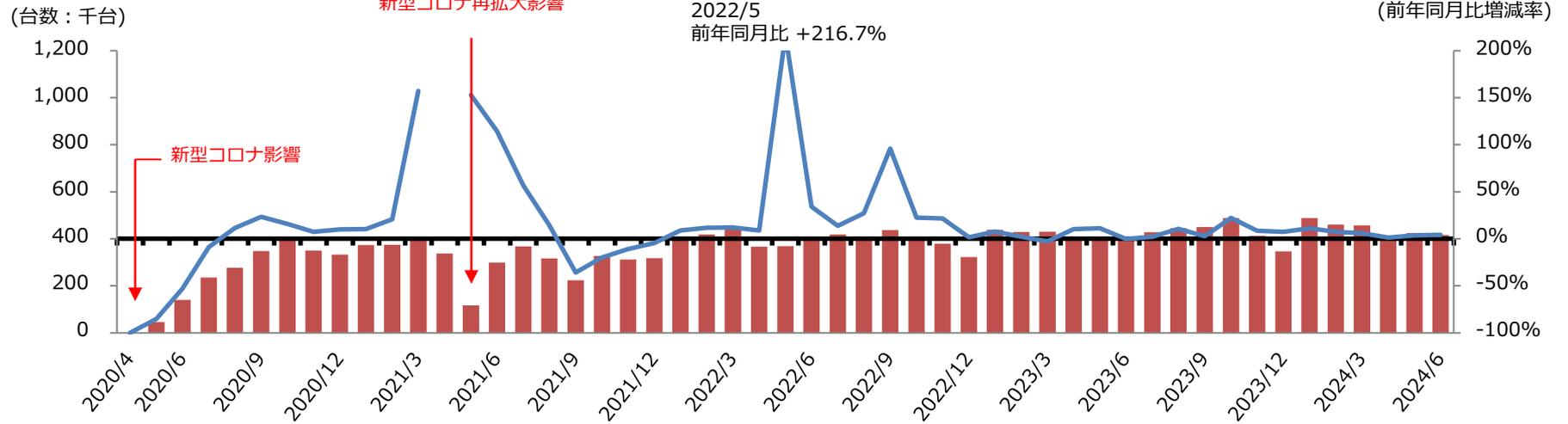
米国自動車販売台数 出典：マークラインズ



自動車市場の動向

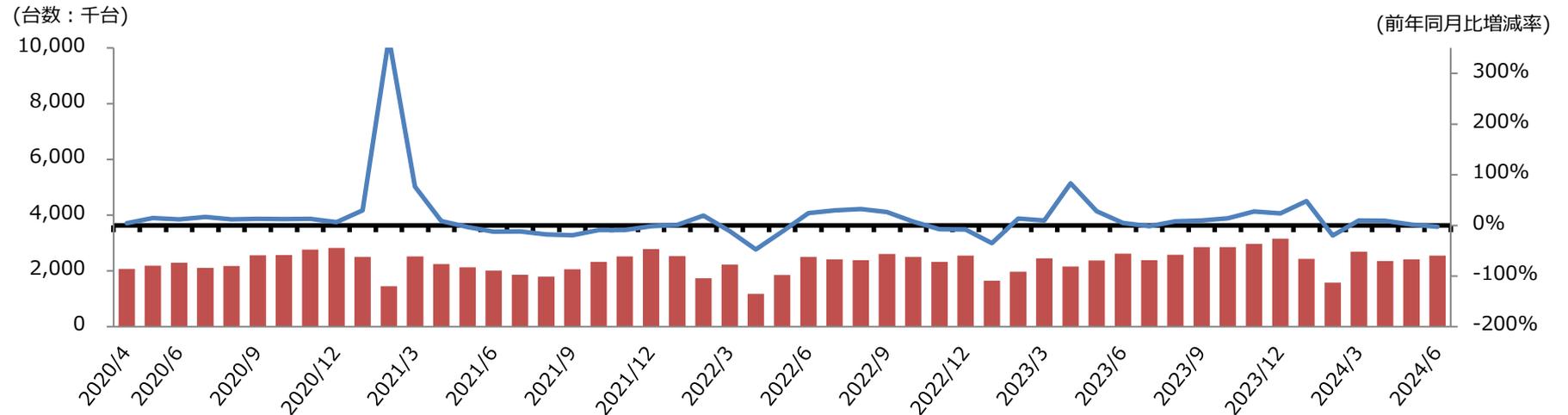
インド自動車販売台数

出典：マークライnz



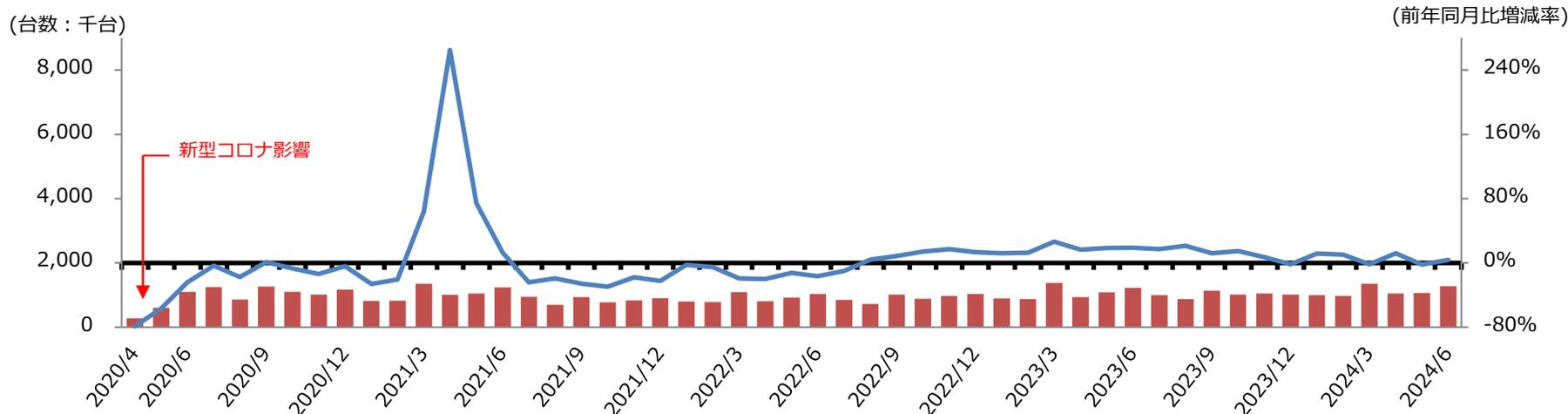
中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

出典：マークライnz

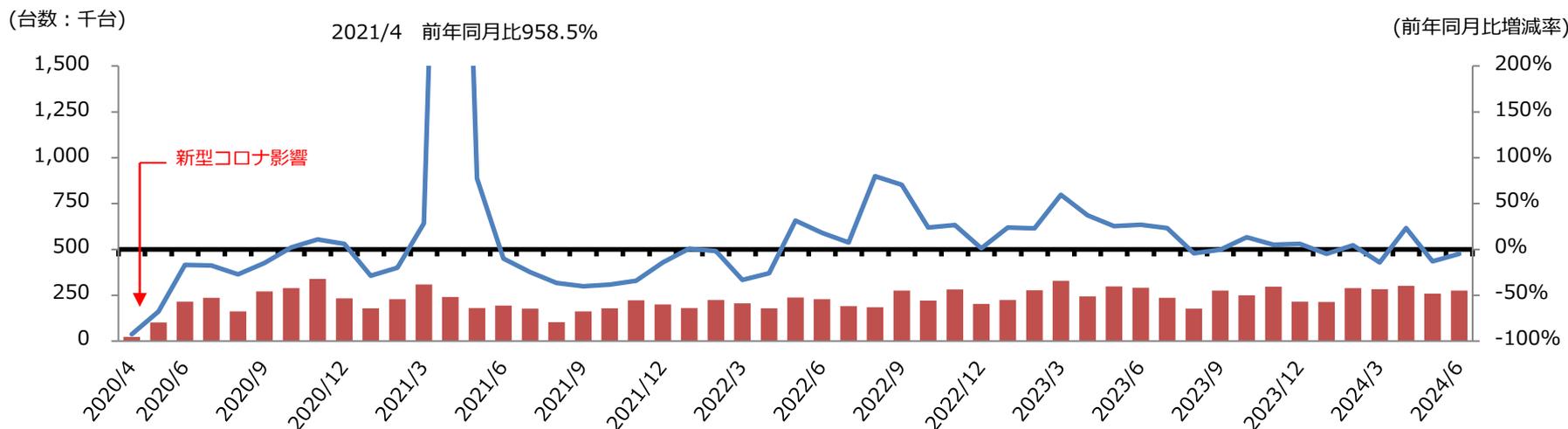


自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 出典：ACEA

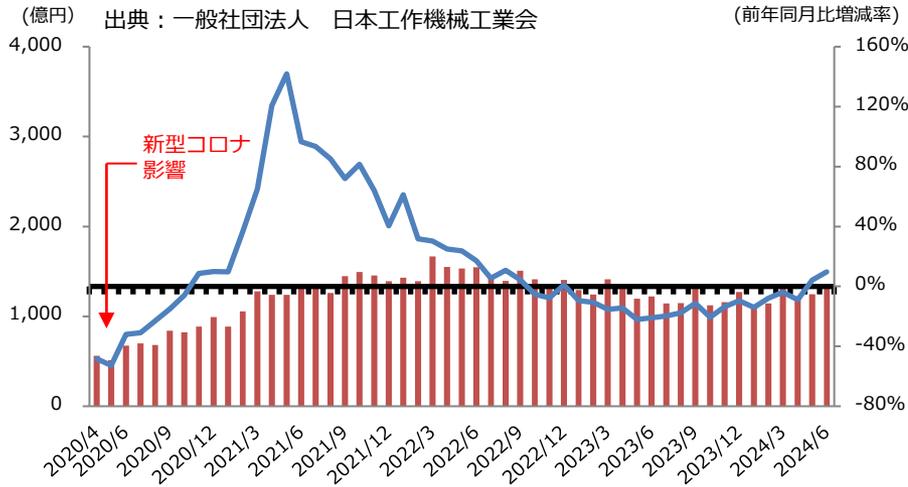


ドイツ自動車輸出台数 出典：VDA

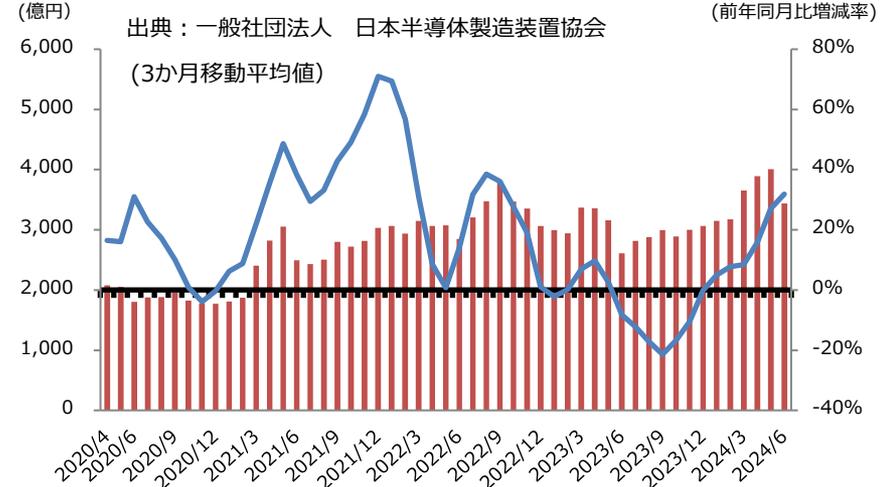


産業機械・建設機械市場の動向

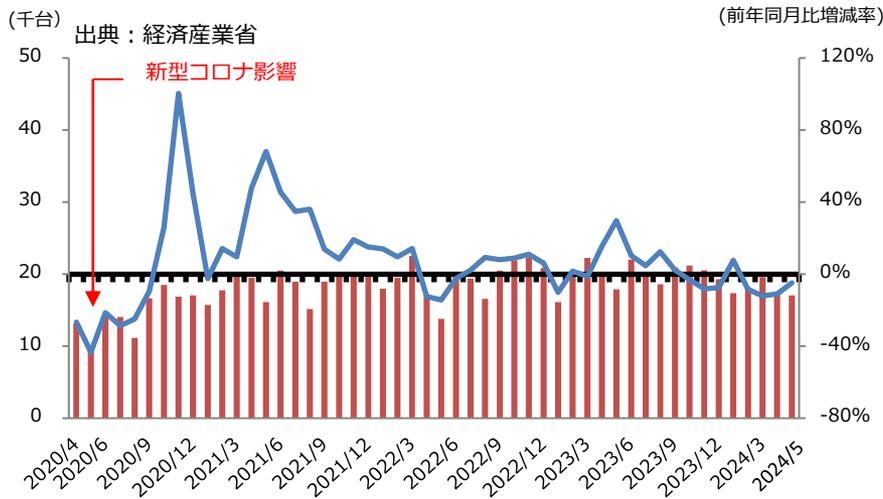
工作機械受注金額(日本)



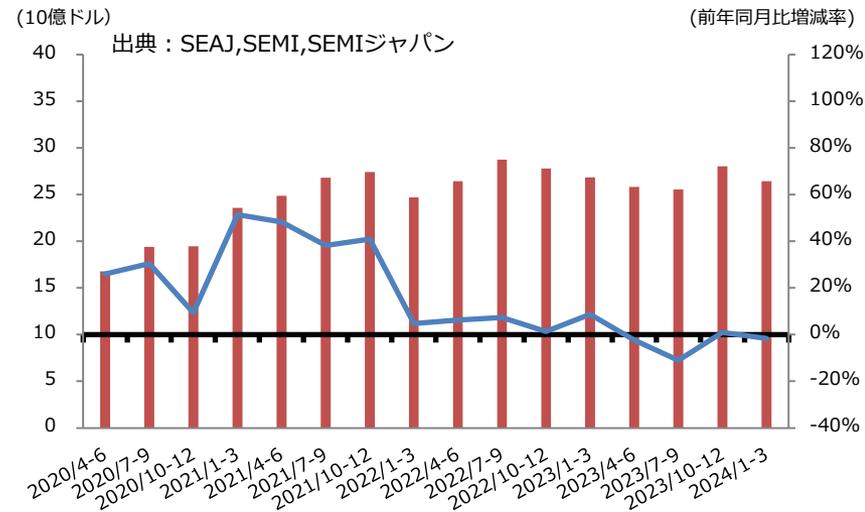
半導体製造装置販売金額(日本)



ショベル系建設機械国内生産台数

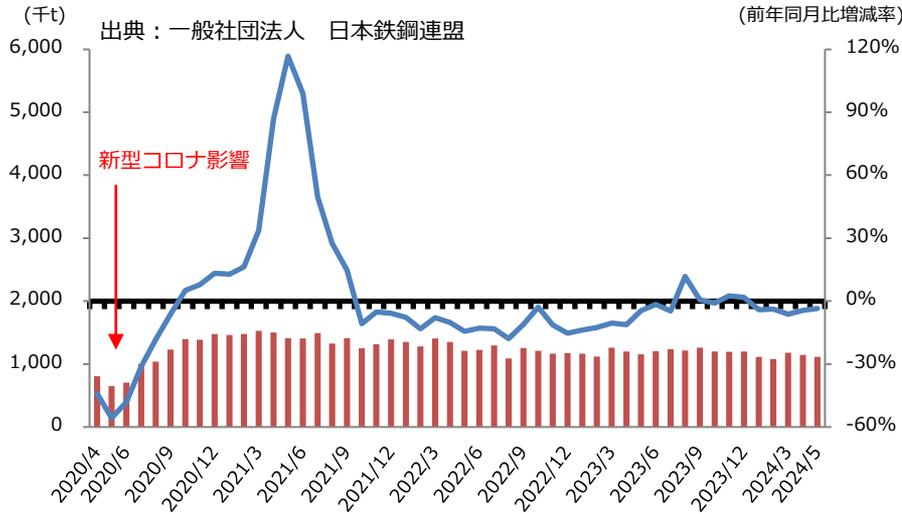


半導体製造装置販売金額(世界)

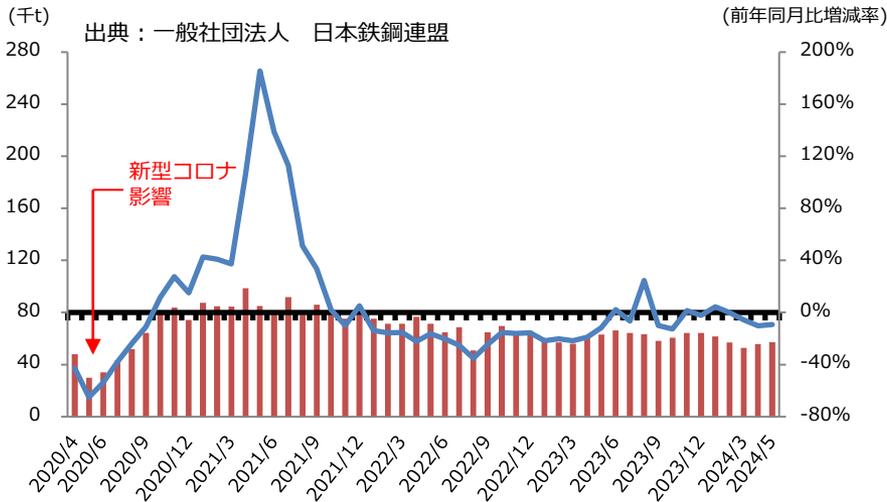


特殊鋼需要の動向

日本特殊鋼受注数量(特殊鋼)



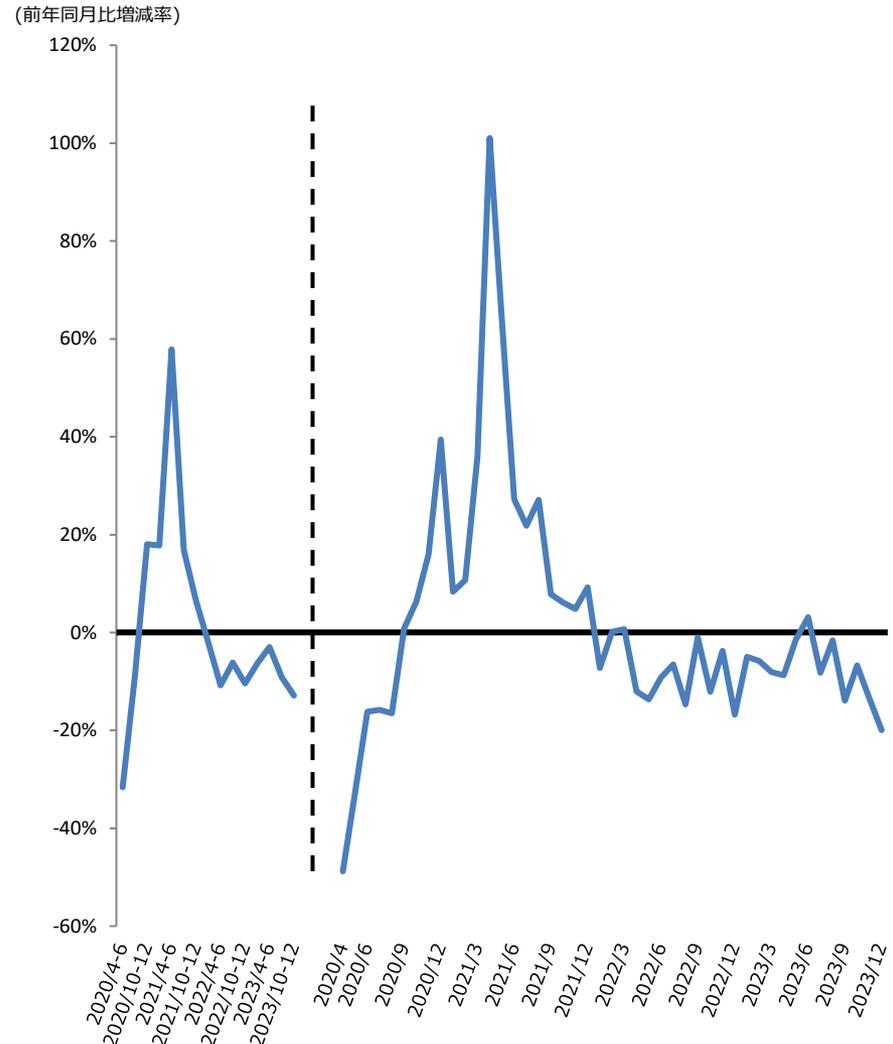
日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)



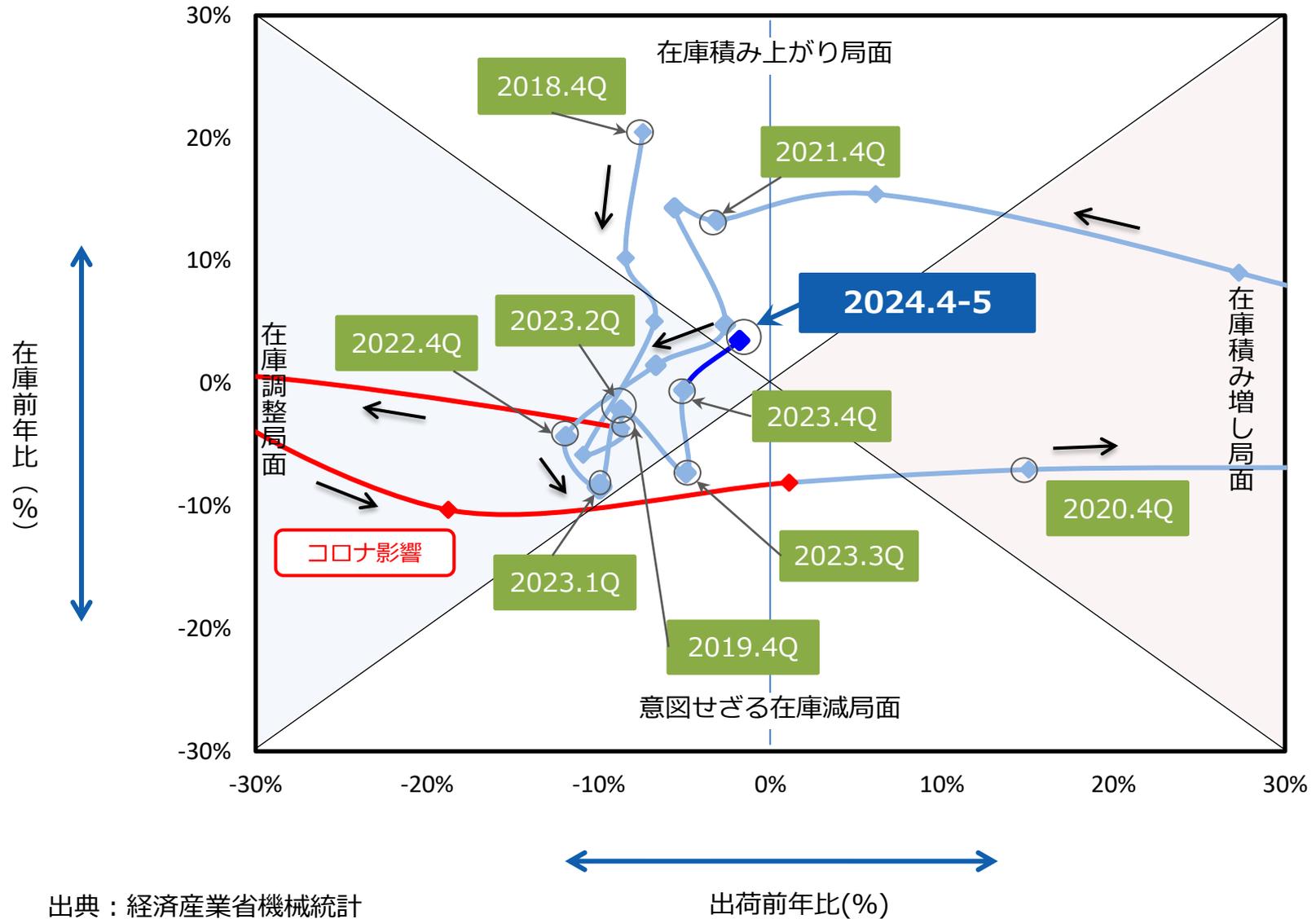
欧州デリバリー数量

棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

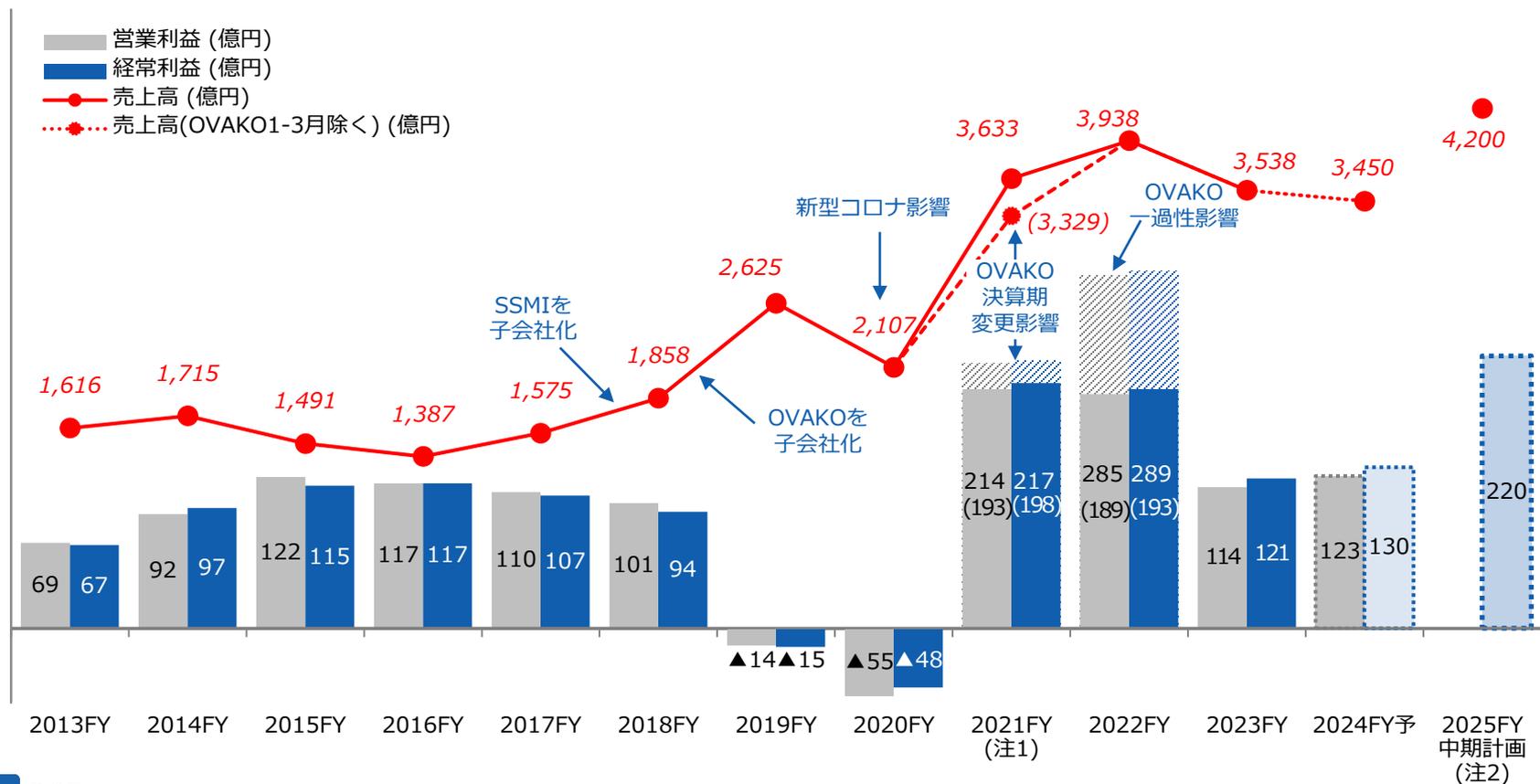
出典：欧州鉄鋼連盟



軸受在庫循環図



業績推移(年度)



ROE

4.1% 6.1% 6.6% 6.6% 5.6% 4.8% -2.0% -3.9% 8.1% 10.1% 4.1% 4.1% 7%

ROE(のれん償却費除く)

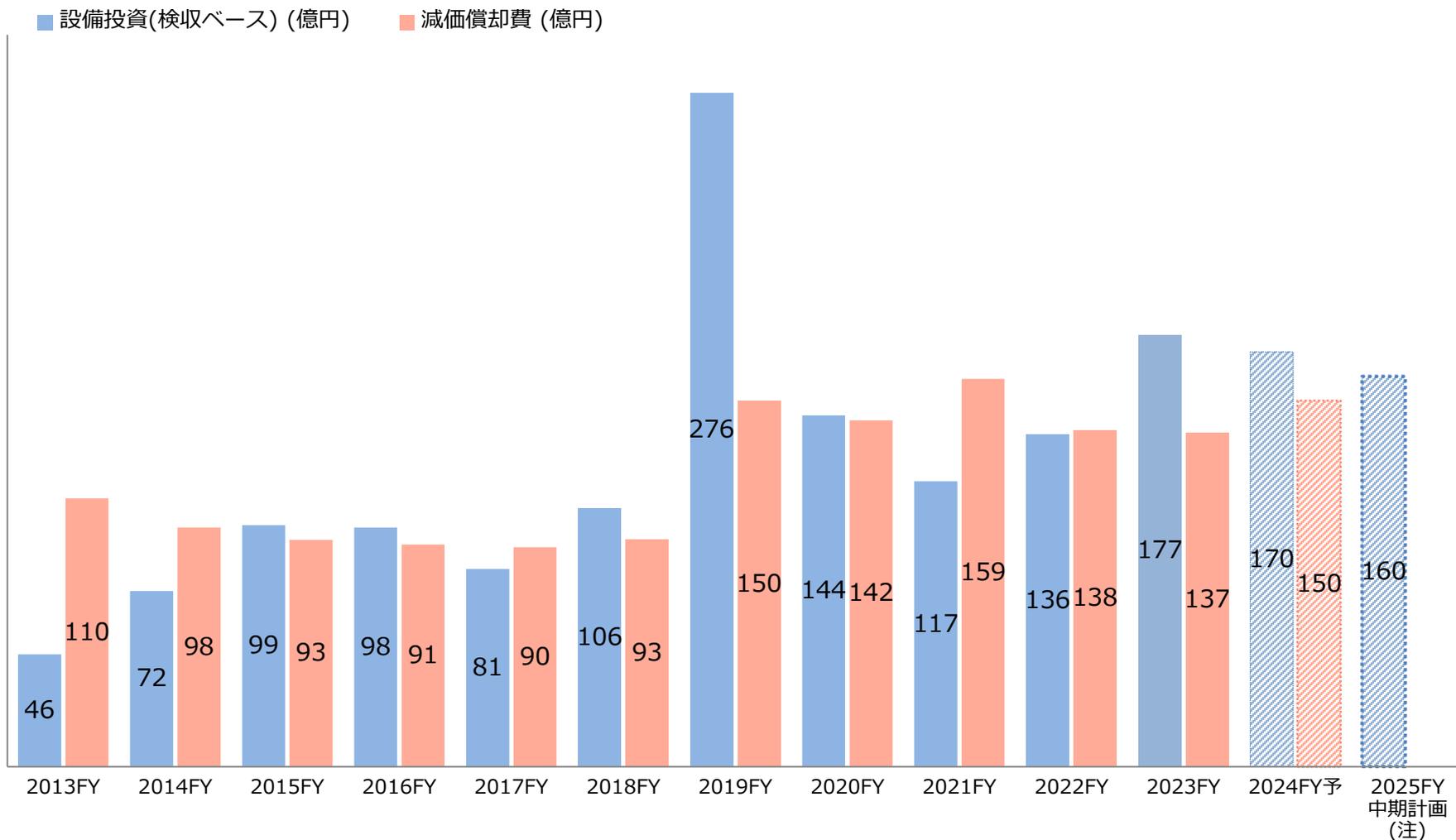
4.1% 6.1% 6.6% 6.6% 5.6% 4.8% 0.3% -2.4% 9.9% 11.5% 5.6% 5.6% 8%

(注1)2021FYのOVAKOおよびのれん償却費は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値

(注2)2023年7月28日公表値

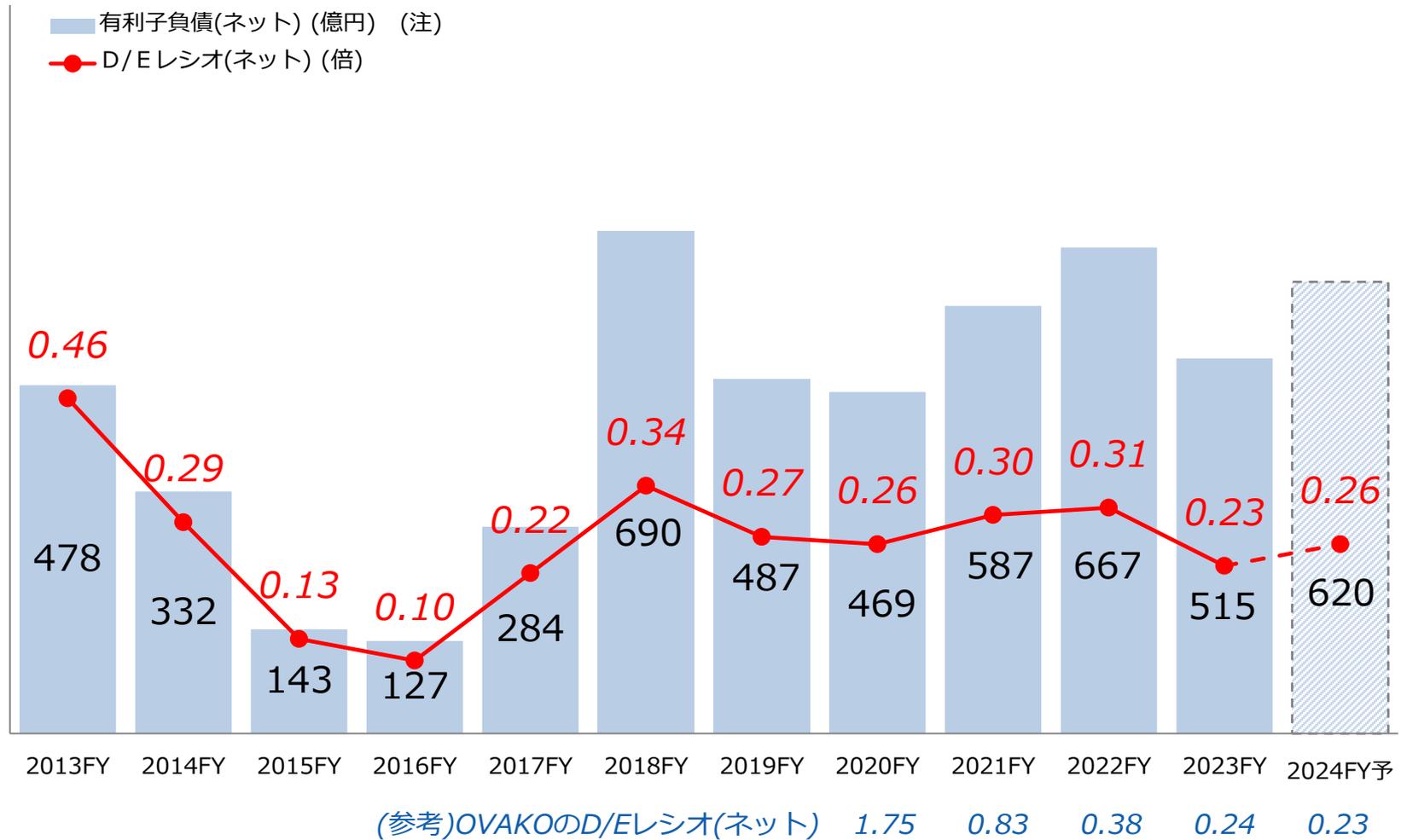
(注3)SSMIは2018FY2Qから、OVAKOは2019FY1Qから損益を連結

設備投資・減価償却費の推移



(注)2023年7月28日公表値

D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

損益の詳細 (対2023FY1Q)

(単位：億円、円/株)

	2024FY1Q (A)	2023FY1Q (B)	増減 (A) - (B)	増減率 (%)
売上高	885	999	-113	-11.4
内、当社単独	391	480	-89	-18.6
内、OVAKO	413	443	-29	-6.6
内、SSMI	56	55	+1	+2.1
営業利益	25	55	-30	-55.3
内、当社単独	2	3	-1	-36.9
内、OVAKO	30	54	-25	-45.1
内、SSMI	3	2	+1	+24.5
内、のれん償却費	▲9	▲8	-1	-
経常利益	28	61	-33	-53.5
内、当社単独	14	20	-6	-30.7
内、OVAKO	28	52	-24	-45.6
内、SSMI	2	2	+0	+13.4
内、のれん償却費	▲9	▲8	-1	-
税後利益 (注1)	20	43	-23	-52.9
1株当たり税後利益	37.3	79.1	-41.8	-52.9
のれん償却費を除く営業利益	33	63	-29	-47.0
のれん償却費を除く経常利益	37	68	-32	-46.1
のれん償却費を除く税後利益	29	51	-22	-42.9
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	53.3	93.4	-40.1	-42.9
売上数量 (千t)	352	392	-40	-10.1
内、当社単独	175	213	-38	-18.0
内、OVAKO	150	152	-2	-1.2
内、SSMI	27	27	+0	+1.1

(注1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(注2)SSMI：1月～3月の数値

損益の詳細 (業績予想 2024/7/30公表 対前年度)

(単位：億円、円/株)

	24FY上期予想 (A)	24FY下期予想 (B)	2024FY予想 (C)=(A)+(B)	2023FY (D)	増減 (C)-(D)	増減率 (%)
売上高	1,650	1,800	3,450	3,538	-88	-2.5
内、当社単独	800	830	1,630	1,782	-152	-8.5
内、OVAKO	695	785	1,480	1,440	+40	+2.8
内、SSMI	120	140	260	229	+31	+13.6
営業利益	26	97	123	114	+9	+8.2
内、当社単独	13	45	58	43	+15	+35.7
内、OVAKO	24	48	72	89	-17	-19.3
内、SSMI	6	8	14	10	+4	+41.7
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	▲32	-2	-
経常利益	25	105	130	121	+9	+7.3
内、当社単独	47	58	105	90	+15	+17.1
内、OVAKO	23	42	65	84	-19	-22.9
内、SSMI	4	6	10	7	+3	+49.4
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	▲32	-2	-
税後利益 (注1)	12	83	95	91	+4	+4.9
1株当たり税後利益	22.0		174.4	166.2	+8.1	+4.9
のれん償却費を除く営業利益	43	114	157	146	+11	+7.4
のれん償却費を除く経常利益	42	122	164	154	+10	+6.7
のれん償却費を除く税後利益	29	100	129	123	+6	+4.9
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	53.2		236.8	225.8	+11.0	+4.9
売上数量 (千t)	671	767	1,438	1,429	+10	+0.7
内、当社単独	362	405	767	806	-39	-4.8
内、OVAKO	253	296	549	508	+41	+8.2
内、SSMI	56	66	122	115	+7	+6.1

(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

損益の詳細 (業績予想 2024/7/30公表 対前回予想)

(単位：億円、円/株)

	今回予想(2024/7/30公表)		前回予想(2024/4/30公表)		増減	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	1,650	3,450	1,625	3,450	+25	-
内、当社単独	800	1,630	775	1,630	+25	-
内、OVAKO	695	1,480	695	1,480	-	-
内、SSMI	120	260	120	260	-	-
営業利益	26	123	21	124	+5	-1
内、当社単独	13	58	12	62	+1	-4
内、OVAKO	24	72	18	70	+6	+2
内、SSMI	6	14	5	14	+1	-
内、のれん償却費	▲17	▲34	▲16	▲31	-1	-3
経常利益	25	130	20	130	+5	-
内、当社単独	47	105	42	105	+5	-
内、OVAKO	23	65	18	65	+5	-
内、SSMI	4	10	3	10	+1	-
内、のれん償却費	▲17	▲34	▲16	▲31	-1	-3
税後利益 (注1)	12	95	10	95	+2	-
1株当たり税後利益	22.0	174.4	18.4	174.4	+3.7	-
のれん償却費を除く営業利益	43	157	37	155	+6	+2
のれん償却費を除く経常利益	42	164	36	161	+6	+3
のれん償却費を除く税後利益	29	129	26	126	+3	+3
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	53.2	236.8	47.7	231.3	+5.5	+5.5
売上数量 (千t)	671	1,438	673	1,452	-2	-14
内、当社単独	362	767	369	780	-7	-13
内、OVAKO	253	549	246	545	+7	+4
内、SSMI	56	122	58	127	-2	-5

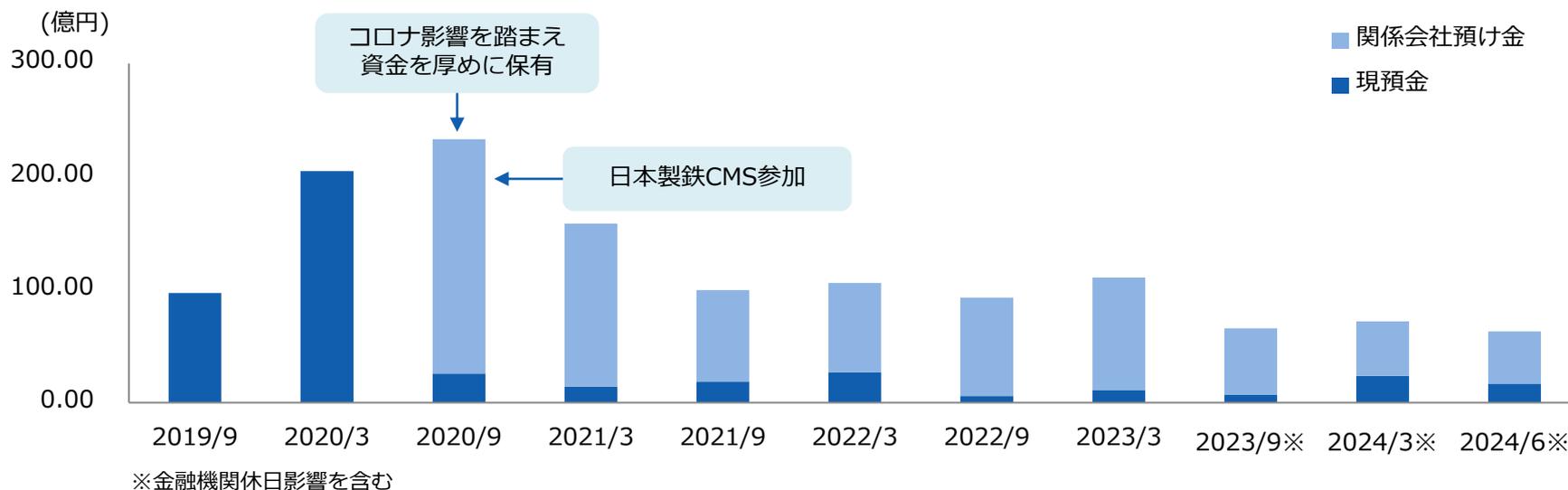
(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

関係会社預け金

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み。
(資金のセーフティネットとして機能)
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、従来の現預金という性質には変わらない。

関係会社預け金を含む現預金等の推移(単独)



(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。

SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>